

Contents

オペラ芸術監督 大野和士	2
<hr/>	
2024/2025シーズン オペラ ラインアップ	4
夢遊病の女	5
ウィリアム・テル	10
魔笛	15
さまよえるオランダ人	21
フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ	26
カルメン	32
蝶々夫人	36
セビリアの理髪師	40
ナターシャ	45
<hr/>	
令和6年度公演	51
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024 (新国立劇場公演)	
トスカ	52
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024 (ロームシアター京都公演)	
ドン・パスクワーレ	54
<hr/>	
公演一覧(1997.10~2024.7)	56

※本資料中のスタッフ・キャストは全て予定であり、変更される可能性があります。
何卒ご承知おきください。

2024/2025 シーズン オペラ

オペラ芸術監督 大野和士



新国立劇場を支えてくださる皆様、全てのオペラファンの皆様へ。

2024/2025シーズンプログラムのお知らせを申し上げます。今期は新制作プロダクションを3作品お届けいたします。

冒頭を飾りますのは、ベッリーニ作曲の可憐なオペラ『夢遊病の女』。悲劇的な『ノルマ』とは対照的な作品です。村の娘アミーナは裕福な村の若者エルヴィーノと恋仲で、超絶技巧の二重唱で結婚の歓びを歌います。そこに現れたのがロドルフォ伯爵で、エルヴィーノはアミーナをロドルフォ伯爵に取られてしまったと誤解し、繊細な美しい高音で嘆きますが、実は“夢遊病”のために夜な夜な村を彷徨っていたアミーナが、エルヴィーノの前に現

れます。

アミーナには、METを始めとする世界中の劇場で美声を轟かせるローザ・フェオーラ、エルヴィーノには、驚異的な歌声に加え、特別な演劇的表現で観客に深い印象を与える、アントニーノ・シラゲーザ。ロドルフォ伯爵には、我が国の誇るスター、妻屋秀和。指揮者は、巨匠ベニーニ。演出家は、自身女優としても活躍している、バルバラ・リュック。これ以上の組み合わせがあるでしょうか。

続いての新制作は、ロッシーニの最後のオペラとなるグランド・オペラ『ウィリアム・テル』（ギョーム・テル）です。彼は速筆の作曲家でしたが、この作品だけは、半年にわたる時間をかけています。原作はシラーのドイツ語ですが、オペラ台本はフランス語で書かれ、今回は、そのオリジナル台本で演奏します。有名な序曲を除いて、全曲お聴きになった方はなかなかいらっしゃらないかもしれませんが、4幕からなるオペラには、オーストリア・ハプスブルク家の支配から解放されたいと格闘するスイスのテル親子と総督ジェスレルとの葛藤が描かれます。スイスの長老メルクタールの息子アルノールは、なんとハプスブルクの皇女マティルドと熱い恋に陥っていましたが、スイスの独立のためそこから身を切り離し、戦いに向かうのです。

テルにはこの役で名声を博している、若くして威厳に満ちたゲジム・ミシュケタ、アルノール役はルネ・バルベラ。2021年、新国立劇場の『チェネレントラ』のドン・ラミーロで、高音の輝かしさと弱音の美しさに思わず息を呑んだ方も多いことでしょう。また、マティルド役のオルガ・ペレチャッコは、今や世界を駆け巡るソプラノ歌手。高音の魅力の美しさはいうまでもなく、最近では中声部の充実も大変魅力的です。

演出は、ヤニス・コッコス、2021年の『夜鳴きうぐいす／イオランタ』ではフランスからリモート演出を行い、作品の叙情を見事に描き出しました。

さて、もう一つの新制作は、日本人作曲家シリーズの第3弾。細川俊夫さんの新作オペラがいよいよ登場します。ドイツ在住で世界的に評価される作家の多和田葉子さんの台本とのコラボレーションです。

新作の題名は『ナターシャ』。ナターシャ（ソプラノ。イルゼ・エーレンス）はウクライナ人で、日本人のアラト（メゾソプラノ。山下裕賀）という若者と出会い、第3の謎めいた“メフィストの孫”（バリトン。クリスティアン・ミードル）によって現代の地獄に誘われます。そこで彼らの眼前に現れるのは、私たちの時代の数多くの身の毛もよだつ現象。しかし、二人はそれらを経験するごとに、お互いになかなか通じない言語を通して意思疎通していたのが、やがて不思議なことに言葉の共有が図られるようになっていきます。さて、どのような未来が彼らの前に現れてくるのでしょうか。

この新しい世界を演出するのは、クリスティアン・レート。演出家であると同時に装置デザイナーでもある才人です。この作品にさまざまな視点からのアプローチをしてくれることでしょう。

この3つの新制作のほか、新国立劇場が誇るレパートリー作品を、素晴らしい歌手、指揮者とともにお送りします。

モーツァルト『魔笛』の指揮者は、チェコ人のトマーシュ・ネトピル。オペラ、コンサート両方の世界で、素晴らしい活動を続けています。タミーノは若い頃からモーツァルトのオペラで席卷しているパヴォル・ブレスリック、夜の女王には名コロラトゥーラ、安井陽子さん。

ワーグナーの『さまよえるオランダ人』には、『ボリス・ゴドゥノフ』の際来日できなかった、ロシアの巨人エフゲニー・ニキティンに再びタイトルロールを歌ってもらうことに加えて、何回もお声をかけていた日本人名バス歌手の松位浩氏の招聘が叶いました。指揮者には私自身も個人的によく存じ上げており、洗練されたワーグナーを操るマルク・アルブレヒトが新国立劇場初登場。

ツェムリンスキーとプッチーニのダブルビル『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』の指揮には、初演でこのプロダクションを指揮していただいた沼尻竜典さんに再びご登場を願いました。トーマス・ヨハネス・マイヤー、ピエトロ・スパニョーリという独、伊の大歌手たちとの共演が楽しみです。

ビゼーの『カルメン』はガエタノ・デスピノーサの指揮。カルメンは、若手で急速にスター街道を歩み始めたサマンサ・ハンキー、『ばらの騎士』のオクタヴィアンなどでも大変な評判の彼女が、カルメンをどのように演じてくれるでしょうか。対するドン・ホセ役は21世紀のスターと言われているアタラ・アヤン。彼のMETデビューでは「彼はまさに、今発見された」と評された逸材。二人は『カルメン』のドラマをひたすら、取り返しのつかない運命的なものへと導いていくでしょう。

プッチーニ『蝶々夫人』は、我らが小林厚子さんのタイトルロール。日本人離れた、真のバタフライの声を持つ彼女が、音楽一家に生まれ育ったエンリケ・マツォーラの指揮で、どのように震える感情を伝えてくれるか、大変楽しみです。

ロッシーニ『セビリアの理髪師』の指揮者コッラード・ロヴァーリスには23年2月に『ファルスタッフ』を指揮していただいたばかり。今では幅広いレパートリーを誇る彼ですが、バロック音楽にも精通しており、それが彼の音楽作りに深く反映しています。その彼と、イタリア音楽の真髄をここまで深めている脇園彩との共演には興味が尽きません。

新国立劇場の多彩なプログラムは、近年、オペラの本場ヨーロッパでも評判になり、イギリスの音楽雑誌「Opera」の表紙を『シモン・ボッカネグラ』の名シーンが飾るなど、世界のオペラ界の注目を集めております。皆様もぜひ、新国立劇場の音絵巻をお楽しみいただければ幸いです。ご来場を心よりお待ちしております。

大野和士

〈プロフィール〉

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドンの夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』を指揮している。本年3月に『トリスタンとイゾルデ』を、24/25シーズンは『ウィリアム・テル』『ナターシャ』を指揮する予定。

2024/2025 シーズン オペラ ラインアップ
〈新制作3演目／レパートリー6演目 合計9演目41公演〉

2024年10月

新制作

夢遊病の女

La Sonnambula | V. ベッリーニ
5回公演

2024年11月

新制作

ウイリアム・テル

Guillaume Tell | G. ロッシーニ
5回公演

2024年12月

魔笛

Die Zauberflöte | W. A. モーツァルト
4回公演

2025年1月～2月

さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer | R. ワーグナー
5回公演

2025年2月

フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ

Eine florentinische Tragödie / Gianni Schicchi | A. ツェムリンスキー／G. プッチーニ
4回公演

2025年2月～3月

カルメン

Carmen | G. ビゼー
5回公演

2025年5月

蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ
4回公演

2025年5月～6月

セビリアの理髪師

Il Barbiere di Siviglia | G. ロッシーニ
5回公演

2025年8月

新制作

創作委嘱作品・世界初演

ナターシャ

Natasha | 細川俊夫
4回公演

夢遊病の女

La Sonnambula

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2024年7/20(土)~7/29(月)

●一般発売日: 2024年8/3(土)

初演:1831年3月6日/ミラノ・カルカーノ劇場

作曲:ヴィンチェンツォ・ベッリーニ

台本:フェリーチェ・ロマーニ(ウジェーヌ・スクリーブ、ジャン=ピエール・オメールのパレエ台本による)

プロダクションについて

ベルカント・オペラを代表する作曲家ベッリーニの『夢遊病の女』を新国立劇場初上演します。スイス・アルプスの山村の結婚をめぐる物語は極めてロマン的で、叙情的な音楽に満ち、「なつかしい眺め」「なぜ憎めないのか」、そしてクライマックスの「ああ信じられないわ」と美しいアリアが続きます。全編を通じて村人たちの合唱が入り、アリアと合唱が交互に場面を展開していくのも印象的です。

本プロダクションはテアトロ・レアル、バルセロナ・リセウ大劇場、パレルモ・マッシモ劇場との共同制作で、2022年12月にマドリードで初演されています。バルバラ・リュックの演出は彼女ならではの感性で閉ざされた山村の女性の心情を浮き彫りにし、話題となりました。

指揮はイタリア・オペラの名匠にして、このプロダクションのマドリードでの初演を指揮したマウリツィオ・ベニーニ。アミーナにベルカントの新スターとして著名劇場を飛び回るローザ・フェオーラ、エルヴィーノには大スターのアントニーノ・シラグーザと、ベルカントの粋を極める達人が集まります。



テアトロ・レアル 2022年公演より
© Javier del Real | Teatro Real

あらすじ

【第1幕】村一番の人気の男エルヴィーノはアミーナと結婚することになっているが、かつてエルヴィーノと交際していたリーザも、まだ彼を愛している。そのリーザに好意を抱くアレッシオのリードで、村人たちが結婚を祝う歌を合唱する。エルヴィーノが到着して、家も財産もこの結婚に捧げるといふ誓約書に署名し、アミーナへ母の指輪を贈る。その時、ロドルフォと名乗る男が村を訪れ、花嫁に目を留める。リーザは自分の宿への宿泊を勧める。ロドルフォはこの村では老いた伯爵が亡くなってその息子も行方不明だと聞かされ、夜な夜な現れる白い幽霊の話をするが、一笑に付す。

夜、ロドルフォが泊まる部屋をリーザが訪れ、彼こそ伯爵の息子だと言い当て、誘惑する。そこへ突然アミーナが現れる。アミーナは実は夢遊病で、無意識のままロドルフォのベッドに入り寝てしまう。新伯爵を祝おうと集まった村人たちは、伯爵のベッドにいるアミーナを見つけて驚く。リーザがエルヴィーノにアミーナの不義を告げる。アミーナが潔白を訴えても誰も聞き入れないが、アミーナの養母テレーザは部屋に残されたリーザのハンカチを発見する。

【第2幕】エルヴィーノは、アミーナは無実だとロドルフォ伯爵が証言したと聞かされても信じず、アミーナの指から母の指輪を引き抜き、リーザを新しい花嫁に指名する。ロドルフォがアミーナは夢遊病者だと説明するが、誰も信じない。リーザはエルヴィーノとの結婚を主張する。しかしテレーザはリーザが残したハンカチのことを明かす。女性ふたりに続けて裏切られたと落胆するエルヴィーノ。その時、涙を流したアミーナがよるめきながら現れる。

ヴィンチェンツォ・ベッリーニ

夢遊病の女

Vincenzo BELLINI / La Sonnambula

全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	マウリツィオ・ベニーニ Maurizio BENINI
演出 Production	バルバラ・リュック Bárbara LLUCH
美術 Set Design	クリストフ・ヘッツァー Christof HETZER
衣裳 Costume Design	クララ・ペルッフォ Clara PELUFFO
照明 Lighting Design	ウルス・シェーネバウム Urs SCHÖNEBAUM
振付 Choreographer	イラツツェ・アンサ Iratxe ANSA

ロドルフォ伯爵 Il conte Rodolfo	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
テレザ Teresa	谷口睦美 TANIGUCHI Mutsumi
アミーナ Amina	ローザ・フェオーラ Rosa FEOLA
エルヴィーノ Elvino	アントニーノ・シラゲーザ Antonino SIRAGUSA
リーザ Lisa	伊藤 晴 ITO Hare
アレッシオ Alessio	近藤 圭 KONDO Kei

ほか

合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

共同制作：テアトロ・レアル、リセウ大劇場、パレルモ・マッシモ劇場

Co-production with Teatro Real of Madrid, Gran Teatre del Liceu, Teatro Massimo di Palermo

2024年	10月	3日(木)18:30	6日(日)14:00
		9日(水)14:00	12日(土)14:00
		14日(月・祝)13:00	

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮: マウリツィオ・ベニーニ

Conductor : Maurizio BENINI

メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界の主要歌劇場、音楽祭で活躍する指揮者。ミラノ・スカラ座に『湖上の美人』でデビューし、同劇場『ドン・カルロ』『道化師』『ドン・パスクワレ』『リゴレット』『夢遊病の女』を指揮。ボローニャ歌劇場管弦楽団、サンチャゴ・ムニシパル劇場首席指揮者、サン・カルロ歌劇場首席客演指揮者などを歴任。最近ではメトロポリタン歌劇場『ドン・パスクワレ』『ロベルト・デヴェリュー』『セビリアの理髪師』『清教徒』『ノルマ』、オランダ国立オペラ『ナブッコ』『椿姫』、チューリヒ歌劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』『夢遊病の女』、モンテカルロ歌劇場『アドリアーナ・ルクヴール』『ルイザ・ミラー』『ファルスタッフ』、パリ・オペラ座『アンナ・ボレーナ』、ブエノスアイレス・コロソ歌劇場『リゴレット』、テアトロ・レアル『イル・トロヴァトーレ』『夢遊病の女』『清教徒』、ワロン歌劇場『オテロ』（ロッシーニ）などを指揮。新国立劇場では98年『セビリアの理髪師』でデビュー、23年『リゴレット』で絶賛を博す。本年7月『トスカ』にも登場予定。



演出: バルバラ・リュック

Production : Bárbara LLUCH

バルセロナの演劇一家に生まれ演劇を学び、俳優としてロベール・ルパージュやマウリツィオ・スカパロらの作品に出演。ナショナル・テアトロ・クラシコ・カンパニー『ドン・ファン・テノーリオ』ドーナ・イネスをはじめ映画やテレビまで幅広く活動。2005年からオペラ演出家および演出助手として活動。再演演出家として、英国ロイヤルオペラでフランチェスカ・ザンベロ演出『ドン・ジョヴァンニ』、リチャード・エア演出『椿姫』、デイヴィッド・マクヴィカー演出『フィガロの結婚』『サロメ』『魔笛』、モネ劇場でロベール・ルパージュ演出『放蕩者のなりゆき』、シドニーとブエノスアイレスでカスパー・ホルテン演出『エウゲニ・オネーギン』『恋愛禁制』などを担当。自身の演出に、マドリード・サルスエラ劇場の『中国の女たち』『ベルナルダ・アルバの家』（オペラXXI賞最優秀作品賞受賞）『狂った王様』、マドリード・テアトロ・クラシコ『夏の夜の夢』、ソフィア王妃芸術宮殿『嫉妬への警告』、ウルグアイのソリス劇場『一輪のばら』、テアトロ・レアル『夢遊病の女』、リセウ大劇場『冬の旅』など。最近ではテアトロ・レアルでマリア・マンチャド・トレスの現代オペラ『La regenta』を演出している。新国立劇場初登場。



ロドルフォ伯爵: 妻屋秀和(バス)

Il conte Rodolfo : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を100役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイーダ』ランフィス、『リゴレット』スパラフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長/フィリッポ二世、『ラインの黄金』ファーズルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムール、『夏の夜の夢』クインス、『イオランタ』ルネ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケルなど出演多数。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

テレーザ:谷口睦美(メゾソプラノ)

Teresa : TANIGUCHI Mutsumi

東京藝術大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ第47期マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第2回大阪国際コンクール声楽部門入選。これまでに『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『皇帝ティートの慈悲』セスト、『ドン・カルロ』エボリ公女などを演じている。モーツァルト『ミサ曲ハ短調』、ベートーヴェン『第九』、ヴェルディ『レクイエム』などのソリストとしても活躍。新国立劇場では『ナブッコ』フェネーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ、『鹿鳴館』大徳寺公爵夫人季子、『ホフマン物語』アントニアの母の声/ステッラ等に出演。21年鑑賞教室及びびわ湖ホール公演『カルメン』タイトルロールでも好評を博した。二期会会員。



アミーナ:ローザ・フェオーラ(ソプラノ)

Amina : Rosa FEOLA

イタリア出身。ジュゼッペ・マルティヌッチ音楽院で学び、レナータ・スコットらのもと研鑽を積む。2010年のドミンゴ主宰オペラリア・コンクール第2位、聴衆賞、サルスエラ賞獲得など数々の受賞で国際的注目を集め、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、シカゴ・リリック・オペラ、チャーリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、グライントボン音楽祭、テアトロ・レアル、ザルツブルク音楽祭などへ次々に出演。最近の主な出演に、ミラノ・スカラ座『愛の妙薬』、チャーリヒ歌劇場『イタリアのトルコ人』『カプレーティ家とモンテッキ家』、バイエルン州立歌劇場『カルメン』『リゴレット』、英国ロイヤルオペラ『リゴレット』など。22/23シーズンはメトロポリタン歌劇場『リゴレット』ジルダ、『フェドーラ』オルガ、ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワレ』ノリーナ、ミラノ・スカラ座、チャーリヒ歌劇場『トゥーランドット』リユー、今シーズンはワシントン・ナショナル・オペラ『ロメオとジュリエット』ジュリエット、サン・カルロ歌劇場『トゥーランドット』リユー、ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワレ』などに登場。新国立劇場初登場。



エルヴィーノ:アントニーノ・シラゲーザ(テノール)

Elvino : Antonino SIRAGUSA

メッシーナ出身。ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、テアトロ・レアル、リセウ大劇場など主要劇場で国際的に活躍。ロッシーニのスペシャリスト、特に『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵の最高の歌手として世界中の主要歌劇場に招かれる。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルにもたびたび出演。近年は『リゴレット』『ファルスタッフ』『椿姫』などヴェルディの諸役でも成功を収めている。重要な出演に、メトロポリタン歌劇場『アルミーダ』、チャーリヒ歌劇場『ウィリアム・テル』、ウィーン国立歌劇場、テアトロ・レアル『愛の妙薬』、リセウ大劇場『清教徒』、スカラ座『ドン・ジョヴァンニ』『イタリアのトルコ人』、ウィーン国立歌劇場、トリノ王立歌劇場、中国国家大劇院などでの『夢遊病の女』、ウィーン国立歌劇場、トリエステ歌劇場『ドン・パスクワレ』、チャーリヒ歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ボローニャ歌劇場『チェネレントラ』などがある。新国立劇場へは02年『セビリアの理髪師』、09年『チェネレントラ』、13年『愛の妙薬』以来待望の登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

リーザ:伊藤 晴(ソプラノ)

Lisa : ITO Hare

三重大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第25期生修了。ミラノ、パリで研鑽を積み、13年パリ地方音楽院修了。第9回藤沢オペラコンクール第2位。小澤征爾音楽塾子どものためのオペラ『子どもと魔法』『ジャンニ・スキッキ』などに出演し、いずれも高い評価を得ている。藤原歌劇団には『ラ・ボエーム』ムゼッタでデビューし、『カルメン』『ラ・トラヴィアータ』『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』を東京・愛知公演で熱演、藤原歌劇団・NISSAY OPERA 2021公演『蝶々夫人』ではタイトルロールを務め、その後同役は青森・宮城・群馬公演でも絶賛を浴びた。また日本オペラ協会には『天守物語』亀姫でデビューし、『夕鶴』つうも見事に演じた。コンサートでは、小澤征爾、チョン・ミョンフン、A.パッティストーニら著名な指揮者やオーケストラとの共演も多い。新国立劇場では『修道女アンジェリカ』オスミーナ、『こうもり』イーダに出演。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。愛知県立芸術大学、名古屋音楽大学各講師。



アレッシオ:近藤 圭(バリトン)

Alessio : KONDO Kei

国立音楽大学卒業。同大学院を首席で修了。新国立劇場オペラ研修所第9期修了。ロームミュージックファンデーション奨学生として、ドイツ・ハンブルクに留学。沼尻竜典指揮トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ定期公演『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』伯爵役で2年連続出演。小澤征爾指揮『子供と魔法』に時計役、東京二期会『ナクソス島のアリアドネ』ハレルキン、日生劇場『リア』フランス国王、『ラ・ボエーム』ショナール、グランドオペラ共同制作『カルメン』モラレスなどに出演。19年は東京芸術劇場『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、小澤征爾音楽塾『カルメン』ダンカイロに出演している。新国立劇場には16年『魔笛』パパゲーノに急遽出演して本格的にデビューし同役に出演を重ねるほか、20年『夏の夜の夢』ディミートリアス、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレスに出演している。二期会会員。



ウィリアム・テル

Guillaume Tell

オペラパレス | 5回公演 | 全4幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2024年8/25(日)~9/3(火)

●一般発売日: 2024年9/7(土)

初演: 1829年8月3日/パリ・オペラ座(王立音楽アカデミー劇場)

作曲: ジョアキーノ・ロッシーニ

原作: フリードリヒ・シラー『ヴィルヘルム・テル』

台本: ヴィクトル＝ジョゼフ＝エティエンヌ・ド・ジュイ、イポリート＝ルイ＝フローラン・ビス

プロダクションについて

ロッシーニ最後のオペラにして最大傑作『ウィリアム・テル』(ギヨーム・テル)を新国立劇場初上演します。『ウィリアム・テル』は伝説の英雄ウィリアム・テルをめぐるシラーの戯曲を原作に、ハプスブルク家の圧政下にあった14世紀スイス・アルプス地方の民衆の自由を求める闘いを描く歴史劇。グランド・オペラ(グラントペラ)様式で書かれ、合唱やバレエシーンがふんだんに織り込まれる壮麗なオペラです。ベルカント・オペラの旗手としてヒット作を連発したロッシーニが、フランス風の美しい旋律を追求し、ロマン主義的なグランド・オペラの扉を開いた画期的作品です。

老若男女におなじみの序曲、そして弓の名手ウィリアム・テル(ギヨーム・テル)が総督の命令で息子の頭に載せたりんごを見事に射抜くエピソードはあまりにも有名。物語はスイス側の青年アルノールとハプスブルクの皇女マティルドの純愛をもう一つの軸とし、アルプス地方の豊かな自然美が瑞々しい音楽で描かれます。幕切れでは清らかなハーブに導かれて自由を謳いあげる崇高な大合唱が響き、血で血を洗う争いの物語が浄化されます。

演出には演出家・舞台美術家として世界で活躍する巨匠ヤニス・コッコスが2021年4月『夜鳴きうぐいす/イオランタ』に続いて登場。コッコス演出に厚い信頼を寄せる大野和士芸術監督自らの指揮のもと、タイトルロールにゲジム・ミシュケタ、アルノールに超人的な声で魅了するテノール、ルネ・バルベラ、マティルドにスター・ソプラノのオルガ・ペレチャッコとベルカントの名手が贅沢に揃います。『ウィリアム・テル』の原語による舞台上演は日本初。ロッシーニの新たな扉を開く『ウィリアム・テル』新国立劇場初上演にご期待ください。

あらすじ

【第1幕】スイス・ウーリ州の山村。畑仕事をする村人たちが圧政を嘆いている。長老メルクタールは祭りで三組の結婚式を執り行うが、自分の息子アルノールは結婚する気配がない。アルノールはハプスブルク家のマティルドへの恋に悩んでいるのだ。角笛が総督ジェスレルの到着を告げ、ギヨーム・テル(ウィリアム・テル)はアルノールに圧政に抵抗するよう諭す。村人ルートルドが横暴なジェスレルの部下を殺害し逃げ込んで来るので、テルは逃亡を助ける。ジェスレルが村人を問い詰めるが、「この村に密告者はいない」と答えたメルクタールが捕らえられてしまう。

【第2幕】夕暮れ、ルツェルン湖近くの丘で、アルノールとマティルドが密かに会い、愛を誓う。テルがアルノールに「彼女は敵だ」と諭す。テルからメルクタールが殺された事を伝えられると、アルノールは父の仇を取ることを誓う。

【第3幕】ジェスレルの館のあるアルトドルフ。マティルドはアルノールの父がジェスレルに殺されたと聞き絶望し、アルノールと永遠の別れを交わす。ジェスレルは人々に、広場のトロフィーに被せた自分の帽子に敬礼するよう強要するが、テルと息子ジェミは従わない。二人を捕らえたジェスレルはテルが弓の名手と知り、息子の頭に載せたりんごを射ることができれば命を助けると言う。テルが見事に射抜き、群衆が歓喜に沸く。しかし「失敗したら第二の矢でジェスレルを射るつもりだった」と言い放ったテルとジェミは、ジェスレルに逮捕される。マティルドの嘆願でジェミは釈放される。

【第4幕】アルノールは亡き父を思い、仲間たちと立ち上がる。母の待つ家に帰ったジェミは父の指示に従い、抵抗の合図に自分の家に火を放つ。テルは船で追放されるが、嵐に襲われ湖岸に乗り上げた機に上陸。息子から受け取った矢でジェスレルを倒す。そこへ町を制圧した抵抗軍が到着し、アルノールもマティルドと再会を果たす。人々はスイスの自由を祝い、感謝する。

ジョアキーノ・ロッシーニ

ウィリアム・テル

Gioachino ROSSINI / Guillaume Tell

全4幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	大野和士 ONO Kazushi
演出・美術・衣裳 Production, Set and Costume Design	ヤニス・コッコス Yannis KOKKOS
アーティストック・コラボレーター Artistic Collaborator	アンヌ・ブランカール Anne BLANCARD
照明 Lighting Design	ヴィニチオ・ケリ Vinicio CHELI
映像 Video Design	エリック・デュラント Eric DURANTEAU
振付 Choreographer	ナタリー・ヴァン・パリス Natalie VAN PARYS
ギヨーム・テル(ウィリアム・テル) Guillaume Tell	ゲジム・ミシュケタ Gezim MYSHKETA
アルノール・メルクタール Arnold Melchtal	ルネ・バルベラ René BARBERA
ヴァルテル・フルスト Walter Furst	須藤慎吾 SUDO Shingo
メルクタール Melchtal	田中大揮 TANAKA Taiki
ジェミ Jemmy	安井陽子 YASUI Yoko
ジェスレル Gesler	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
ロドルフ Rodolphe	村上敏明 MURAKAMI Toshiaki
マティルド Mathilde	オルガ・ペレチャツコ Olga PERETYATKO
エドヴィージュ Hedwige	齊藤純子 SAITO Junko
合唱 Chorus	ほか 新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2024年	11月	20日(水) 16:00	23日(土・祝) 14:00
		26日(火) 14:00	28日(木) 14:00
		30日(土) 14:00	

【チケット料金】 S:31,900円 ・ A:26,400円 ・ B:18,700円 ・ C:13,200円 ・ D:7,700円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:大野和士

Conductor : ONO Kazushi

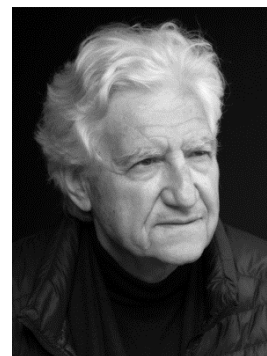
東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドン』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』を指揮している。本年3月に『トリスタンとイゾルデ』を、24/25シーズンは『ウイリアム・テル』『ナターシャ』を指揮する予定。



演出・美術・衣裳:ヤニス・コッコス

Production, Set and Costume Design : Yannis KOKKOS

アテネ生まれ。ストラスブールの演劇高等学院で舞台美術を学ぶ。舞台美術家としてコメディ・フランセーズ、アヴィニョン演劇祭、ミラノ・ピッコロ座などでアントワヌ・ヴィテーズ演出の多くの作品を手掛けた。主なオペラの美術に、パリ・オペラ座『マクベス』、ミラノ・スカラ座『ペレアスとメリザンド』、ウィーン国立歌劇場『魔笛』、ボローニャ歌劇場『ドン・カルロ』、ジュネーヴ大劇場『エレクトラ』などがある。87年から演出家としてボローニャ歌劇場、シャトレ座、オランダ音楽祭、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、マリインスキー劇場などで『ボリス・ゴドゥノフ』『ファウストの劫罰』『ヴェニスに死す』『ジュリオ・チェーザレ』『カルメン』『ドン・ジョヴァンニ』『トリスタンとイゾルデ』『ペレアスとメリザンド』などを演出。スカラ座98/99シーズン開幕公演『神々の黄昏』、02/03シーズン開幕公演『オーリードのイフィジエニー』も手がける。最近ではギリシャ国立歌劇場『エレクトラ』、パルマ王立歌劇場（22年）、ボローニャ歌劇場（23年）『運命の力』、ミラノ・スカラ座『ルチア』（23年）を演出。批評家協会賞、二度のモリエール賞、プラハ・カドリエンナーレ金賞、フランス芸術文化勲章など受賞多数。98年、ウェルシュ・ナショナル・オペラ『皇帝ティートの慈悲』がオリヴィエ賞最優秀オペラ作品賞を、シャトレ座の『トロイ人』の演出で04年批評家賞を受賞。新国立劇場では19年オペラ研修所試演会『イオランタ』、21年『夜鳴きうぐいす/イオランタ』を演出した。



ギョーム・テル(ウイリアム・テル):ゲジム・ミシュケタ(バリトン)

Guillaume Tell : Gezim MYSHKETA

アルバニア出身。パルマで学び、06年AsLiCoコンクール優勝。マシー歌劇場ツアー公演『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコでデビュー。ヴェローナ・フィラルモニコ劇場、トリエステ・ヴェルディ歌劇場、パームビーチ・オペラ、シュトゥットガルト歌劇場などに出演を重ねる。近年の成功作に、グレンジ音楽祭、カリアリ歌劇場などの『マクベス』タイトルロール、パレルモ・マッシモ劇場『シチリアの晩鐘』ギー・ド・モンフォール、ベルリン・ドイツ・オペラ、ライブツィヒ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭『カルメン』エスカミーリョ、ハンブルク州立歌劇場、ライブツィヒ歌劇場『椿姫』、モンペリエ歌劇場『セビリアの理髪師』バルトロ、『リゴレット』タイトルロール、サン・カルロ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』パオロ、ボローニャ歌劇場、トリノ王立歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、チューリヒ歌劇場『運命の力』フラ・メリトーネ、コモ、クレモナ、プレーシャ、ベルガモ、ピサなどで上演された『ウイリアム・テル』タイトルロールがある。新国立劇場では22年『椿姫』ジェルモンに出演した。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

アルノール・メルクタール:ルネ・バルベラ(テノール)

Arnold Melchtal : René BARBERA

アメリカのテノール。2011年オペラリア・コンクール3部門を単独で受賞。最も刺激的なアーティストに急成長し、伸びやかな声と豊かな音楽性で活躍。これまでに、バイエルン州立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、シアトル・オペラ、ロサンゼルス・オペラ『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、ミラノ・スカラ座、ダラス・オペラ、パレルモ・マッシモ劇場『椿姫』アルフレード、またウィーン国立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、パリ・オペラ座、オランダ国立オペラ、ローマ歌劇場、ロサンゼルス・オペラで『愛の妙薬』ネモリーノ、『ドン・パスクワレ』エルネスト、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『新聞』ジャンネット、『イタリアのトルコ人』ナルシスコなどに出演。22/23シーズンはダラス・オペラ『リゴレット』マントヴァ公爵、フェニーチェ歌劇場『ファルスタッフ』フェントン、カリアリ歌劇場オマーン公演『愛の妙薬』ネモリーノ、ワロン歌劇場『夢遊病の女』エルヴィーノ、パレルモ・マッシモ劇場『ドン・パスクワレ』エルネスト、メトロポリタン歌劇場『ばらの騎士』テノール歌手に出演。新国立劇場には20年『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵でデビュー、21年には『チェネレントラ』ドン・ラミーロで熱狂を巻き起こした。



ジェミ:安井陽子(ソプラノ)

Jemmy : YASUI Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。二期会オペラ研修所第43期マスタークラス修了。文化庁在外研修員としてウィーンに留学、ウィーン国立音楽大学研究課程声楽科修了。クラーゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。同国フォアアールベルク音楽劇場『魔笛』夜の女王、ブレゲンツ音楽祭およびザンクト・ベルテン音楽祭でオッフェンバック『青ひげ』小姓、ロザリンデに出演し高い評価を受ける。国内では2008年東京二期会『ナクソス島のアリアドネ』ツェルピネッタで本格デビュー。新国立劇場では『魔笛』夜の女王、『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』顕子、『ばらの騎士』ゾフィー、『アラベッラ』フィアッカミッリ、『ファルスタッフ』サンネッタ、『ホフマン物語』オランピア、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリストなど数多く出演。22年12月には台中国家歌劇院で上演された『魔笛』夜の女王役に招聘され、大成功を収めた。宗教曲から久石譲・交響組曲「もののけ姫」など、ミニマルミュージックまで幅広く活躍している。二期会会員。



ジェスレル:妻屋秀和(バス)

Gesler : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を100役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイーダ』ランフィス、『リゴレット』スパラフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長/フィリッポ二世、『ラインの黄金』ファーズルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムール、『夏の夜の夢』クインス、『イオランタ』ルネ、『ニュルンベルクのマイスタージーンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケルなど出演多数。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

マティルド:オルガ・ペレチャツコ(ソプラノ)

Mathilde : Olga PERETYATKO

サンクトペテルブルク音楽院を卒業後、ハンス・アイスラー音楽大学、ハンブルク州立歌劇場オペラスタジオ、アカデミア・ロッシニアーナで学ぶ。説得力ある声と抜群の存在感で、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、テアトロ・レアル、リセウ大劇場、パリ・オペラ座、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭など世界の歌劇場、音楽祭に招かれる。ルパージュ演出『夜鳴きうぐいす』、ヴェンダース演出『真珠採り』など話題作へも多数出演。オーパス・クラシック賞、エコー・クラシック賞、アッピアーティ賞受賞。最近では、ベルリン州立歌劇場『イドメネオ』エレットラ、『トゥーランドット』リユー、『真珠採り』レイラ、ハンブルク州立歌劇場『ファウスト』マルグリート、コロソ歌劇場『アンナ・ボレーナ』、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ブルゴーニュのアデライーデ』タイトルロール、トリノ王立歌劇場『つばめ』マグダに出演。ハンブルク州立歌劇場で『ノルマ』(ロールデビュー)、ボローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、チューリヒ歌劇場『イタリアのトルコ人』フィオリツァなどに出演予定。新国立劇場へは17年『ルチア』でデビューし大評判となった。



エドヴィーシュ:齊藤純子(メゾソプラノ)

Hedwige : SAITO Junko

東京藝術大学卒業、同大学院修了。フランス政府給費留学生として渡仏後、パリ、ニューヨーク、ボルドーなどで研鑽を積む。以降、ボルドー大劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ラヴェンナ・ダンテ・アリギエーリ劇場、チロル音楽祭、南チロル音楽祭、サンタンデール音楽祭など欧州各地で活躍。オペラでは『フィデリオ』レオノーレ、『カルメン』タイトルロール、『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『ワルキューレ』ゲルヒルデ、また、びわ湖ホール『神々の黄昏』ノルン2、『ジュリエッタとロメオ』本邦初演公演アデーリアに出演。ソプラノからコントラルトまでの幅広い声域を持ち、コミカルなキャラクターからシリアスな役まで手掛ける。出演した『アルツィラ (タイトルロール)』『ニーベルングの指環』『裏切りの瞳』などのCD、DVDは、世界各国で発売されている。新国立劇場では『フィレンツェの悲劇』ピアンカ、『チェネレントラ』ティーズベ、『修道女アンジェリカ』公爵夫人、『子どもと魔法』お母さん出演。フランス在住。藤原歌劇団団員。



魔笛

Die Zauberflöte

オペラパレス | 4回公演 | 全2幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2024年9/28(土)~10/7(月)

●一般発売日: 2024年10/13(日)

初演:1791年9月30日/アウフ・デア・ヴィーデン劇場

作曲:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

台本:エマヌエル・シカネーダー

プロダクションについて

モーツァルトのオペラ『魔笛』は“ジングシュピール(歌芝居)”として作曲されたファンタジー。子どもにも耳なじみのある曲が多く、世界中で多くの子どもたちが『魔笛』でオペラ鑑賞デビューを飾っています。「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲、夜の女王の歌う有名なアリア「地獄の復讐はわが心に燃え」など聴きどころが満載で、モーツァルト晩年の美しい曲が次々に繰り出される様はまさに“音の宝石箱”のようです。さらに、『魔笛』には、友愛の精神や人間が克己し成長していく様が描かれ、最終場では崇高な精神と音楽が劇場を至福の空間へ変貌させます。無二の傑作として大人のファンも多い、奥行きが深い作品です。

現代アートの巨匠ウィリアム・ケントリッジのプロダクションは、素描を映像にして取り入れた神秘的な舞台で、人間の影と光を対比させる素朴な映像美、そして舞台からあふれ出すケントリッジならではの深い知性とポエジーが作品の本質を伝えます。一方でケントリッジは、『魔笛』が内包する啓蒙思想に植民地主義を通して光を当て、「善」や「力」についての洞察も込めています。

指揮はチェコの俊英トマーシュ・ネトピル。出演者には、世界最人気のモーツァルト歌いバヴォル・ブレスリックがタミーノに登場するほか、ヨーロッパで頭角を現すマテウス・フランサが来日。安井陽子の夜の女王をはじめ、実力派日本人歌手が勢揃いします。



2018年公演より

あらすじ

【第1幕】森で大蛇に襲われ、気絶してしまった王子タミーノ。そこに夜の女王に仕える3人の侍女がやってきて、大蛇を退治し立ち去る。タミーノが目覚めると大蛇が死んでいるのにびっくり。やってきた鳥刺しのパパゲーノに尋ねてみると、大蛇を退治したのは自分だと誇らしげに語る。が、それは嘘で、罰として3人の侍女がパパゲーノの口に鍵をかけてしまう。3人の侍女は、夜の女王の娘パミーナの肖像画をタミーノに見せ、邪悪なザラストロにさらわれた彼女を救ってほしいと訴える。パミーナの肖像に一目惚れしたタミーノは引き受ける。夜の女王はタミーノに魔法の笛、口の鍵の解けたパパゲーノに銀の鈴を授ける。

ザラストロの神殿にいるパミーナのもとにパパゲーノが行き、タミーノが助けにくることを伝える。喜ぶパミーナ。タミーノは神殿の門に到着するが、弁者によれば、ザラストロは暴君ではなく賢人で、高慢な夜の女王からパミーナをかかまっているのだという。そしてザラストロが登場。タミーノとパパゲーノは神殿に招き入れられる。

【第2幕】タミーノは、徳と正義を得るため試練を受けることになる。これを経れば妻に会えると言われたパパゲーノも、しぶしぶ同行する。一方パミーナのもとには夜の女王が現れ、ザラストロを殺せと命じて短剣を渡す。悩むパミーナに、ザラストロは、神殿では愛だけが暴力に打ち勝つ、と語る。タミーノとパパゲーノの最初の試練は、喋ってはいけない「沈黙」の試練。タミーノはパミーナとも喋れず、次の試練のため彼女と別れねばならない。彼の態度にパミーナは絶望して自殺をはかるが、3人の童子が止める。その後タミーノとパミーナは再会し、最後の「火」「水」の試練を2人で乗り越える。女房がほしいとぼやくパパゲーノは試練などお構いなしだが、努力は認められ、伴侶のパパゲーノと出会う。夜の女王たちは滅び、ザラストロ、タミーノ、パミーナたちは神を讃える。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

魔笛

Wolfgang Amadeus MOZART / Die Zauberflöte

全2幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	トマーシュ・ネトピル Tomáš NETOPIL
演出 Production	ウィリアム・ケントリッジ William KENTRIDGE
美術 Set Design	ウィリアム・ケントリッジ William KENTRIDGE ザビーネ・トイニッセン Sabine THEUNISSEN
衣裳 Cosutume Design	グレタ・ゴアリス Greta GOIRIS
照明 Lighting Design	ジェニファー・ティプトン Jennifer TIPTON
プロジェクション Projection Design	キャサリン・メイバーク Catherine MEYBURGH
ザラストロ Sarastro	マテウス・フランサ Matheus FRANÇA
タミーノ Tamino	パヴォル・ブレスリック Pavol BRESLIK
弁者・僧侶 I・武士II Sprecher / Erster Priester / Zweiter Geharnischter	清水宏樹 SHIMIZU Hiroki
僧侶 II・武士I Zweiter Priester / Erster Geharnischter	秋谷直之 AKITANI Naoyuki
夜の女王 Königin der Nacht	安井陽子 YASUI Yoko
パミーナ Pamina	九嶋香奈枝 KUSHIMA Kanae
侍女I Erste Dame	今野沙知恵 KONNO Sachie
侍女II Zweite Dame	宮澤彩子 MIYAZAWA Ayako
侍女III Dritte Dame	石井 藍 ISHI Ai
童子I Erster Knabe	前川依子 MAEKAWA Yoriko
童子II Zweiter Knabe	野田千恵子 NODA Chieko
童子III Dritter Knabe	花房英里子 HANAFUSA Eriko
パパゲーナ Papagena	種谷典子 TANETANI Noriko
パパゲーノ Papageno	駒田敏章 KOMADA Toshiaki
モノスタス Monostatos	升島唯博 MASUJIMA Tadahiro

合唱 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus
管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2024年	12月	10日(火)18:30	12日(木)14:00
		14日(土)14:00	15日(日)14:00

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:トマーシュ・ネトピル

Conductor : Tomáš NETOPIIL

チェコでヴァイオリンと指揮を学んだ後、ストックホルム王立音楽院に学ぶ。02年ショルティ指揮コンクール優勝。08年～12年プラハ国民劇場音楽監督、13年～23年エッセン歌劇場及びエッセン・フィルハーモニー音楽総監督を務め、現在、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、クロムネジェーシュ国際サマーアカデミー創設者兼芸術監督。特にチェコ音楽を得意とし、オペラとコンサート双方で活躍。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン放送響、ウィーン響、パリ管、フランス国立管などに出演。22/23シーズンはエッセン歌劇場で『タンホイザー』『Dogville』『フィガロの結婚』を、ジュネーヴ大劇場で『カーチャ・カヴァノヴァ』を指揮。23/24シーズンはハンブルク州立歌劇場『イエスファ』、プラハ国民劇場『ルサルカ』を指揮するほか、フランクフルト歌劇場管弦楽団、チロル劇場管弦楽団、オランダ放送管弦楽団、モンテカルロ管弦楽団、ネーブルズ・フィルハーモニー、フォートワース交響楽団、アスペン音楽祭に登場する。新国立劇場では12年『さまよるオランダ人』を指揮している。



演出:ウィリアム・ケントリッジ

Production : William KENTRIDGE

南アフリカ生まれ。ドローイング、アニメーションフィルム、演劇活動やオペラ演出で国際的に評価されている現代美術家。政治学及びアフリカ学を学んだ後、ヨハネスブルク・アート・ファンデーションとパリ・エコール・ルコックで学ぶ。その活動は様々な手法やジャンルの相互的な融合から生まれ、南アフリカの社会的背景である植民地主義やアパルトヘイトといった負の遺産が反映されている。パステルや木炭のドローイングをコマ撮りした映像作品が多く、その理論は、ストップモーションや初期の特殊効果という映画の技術史そのものによる。1990年代より国際的に評価を高め、カッセルのドクメンタ、ニューヨーク近代美術館、ウィーン・アルベルティーナ、サンフランシスコ近代美術館、フィラデルフィア美術館、ルーヴル美術館、メトロポリタン美術館、テート・モダンなどで個展が開かれる。近年はオペラ演出も多く、『ウリッセの帰還』『魔笛』『鼻』『ルル』『ヴォツェック』といった作品で、モネ劇場、エクサン・プロヴァンス音楽祭、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、リヨン歌劇場、オランダ国立オペラ、ザルツブルク音楽祭、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座などに登場している。ゴスラーの皇帝の指環賞、カーネギー賞、スタンダード銀行ヤングアーティスト賞、レッドリボン短編映画賞、京都賞、フランス芸術文化勲章コマンドゥール、アストゥリアス皇太子賞、高松宮殿下記念世界文化賞など数々の賞を受賞している。



ザラストロ:マテウス・フランサ(バス)

Sarastro : Matheus FRANÇA

ブラジル出身。ブラジリア大学で音楽を学び、合唱指揮、管弦楽指揮の学位を取得した後、声楽を学ぶ。ブラジリアで上演されたペルゴレージ『奥様女中』でオペラデビュー。サンパウロに移り、サンパウロ市立劇場で『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『真珠採り』ヌーラバッド、『ばらの騎士』警部、『ナブッコ』ザッカーリアに出演。サンパウロで『ドン・ジョヴァンニ』騎士長に出演した後、ウィーンのカロスターノイブルク音楽祭『運命の力』ゲルディアノー神父に出演。24/25シーズンまでベルン歌劇場と契約し、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『ラインの黄金』『ジークフリート』ファフナー、『魔笛』ザラストロ、『イオランタ』ルネ王、『ウィリアム・テル』ジェスレルなどに出演。23、24年のカロスターノイブルク音楽祭では『ドン・カルロ』宗教裁判長に出演する。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

タミーノ:パヴォル・ブレスリック(テノール)

Tamino : Pavol BRESLIK

2005年の「Opernwelt」誌最優秀若手歌手に選出され国際的な躍進を遂げる。ベルリン州立歌劇場専属歌手を経てフリーとなり、ヨーロッパの主要歌劇場や音楽祭、メトロポリタン歌劇場へ出演。ウィーン国立歌劇場『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『愛の妙薬』ネモリーノ、『椿姫』アルフレード、バイエルン州立歌劇場『ルクレツィア・ボルジア』ジェンナーロ、『ルチア』エドガルド、『椿姫』アルフレード、『愛の妙薬』ネモリーノ、『魔笛』タミーノ、英国ロイヤルオペラ『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『魔笛』タミーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオなどに出演。チューリヒ歌劇場、パリ・オペラ座、リセウ大劇場、モネ劇場、ベルリン州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、ジュネーヴ大劇場などへも出演を重ねる。ベルリン・フィルの『魔笛』などが映像化され、ミュンヘン放送管弦楽団との『モーツァルト・アリア集』など録音も多い。23/24シーズンはバイエルン州立歌劇場『イドメネオ』タイトルロール、パリ・オペラ座『サロメ』ナラボート、チューリヒ歌劇場『チャルダッシュの女王』エドウィン、ベルリン州立歌劇場『イエヌーフア』シュテヴァに出演予定。新国立劇場初登場。



夜の女王:安井陽子(ソプラノ)

Königin der Nacht : YASUI Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。二期会オペラ研修所第43期マスタークラス修了。文化庁在外研修員としてウィーンに留学、ウィーン国立音楽大学研究課程声楽科修了。クラーゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。同国フォアアールベルク音楽劇場『魔笛』夜の女王、ブレゲンツ音楽祭およびザンクト・ベルテン音楽祭でオッフェンバック『青ひげ』小姓、ロザリンデに出演し高い評価を受ける。国内では2008年東京二期会『ナクソス島のアリアドネ』ツェルピネッタで本格デビュー。新国立劇場では『魔笛』夜の女王、『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』顕子、『ばらの騎士』ゾフィー、『アラベッラ』フィアッカミッリ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『ホフマン物語』オランピア、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリストなど数多く出演。22年12月には台中国家歌劇院で上演された『魔笛』夜の女王役に招聘され、大成功を収めた。宗教曲から久石譲・交響組曲「もののけ姫」など、ミニマルミュージックまで幅広く活躍している。二期会会員。



パミーナ:丸嶋香奈枝(ソプラノ)

Pamina : KUSHIMA Kanae

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノに留学。05年アテネ国立劇場開場記念公演『魔笛』(ミヒャエル・ハンペ演出)に招聘され出演。東京二期会07年、15年『魔笛』パパゲーナ、びわ湖ホール『死の都』ユリエッテ、PMFステージオペラ『ナクソス島のアリアドネ』ナヤデなどに出演。ドヴォルザーク『レクイエム』、ベートーヴェン『第九』のソリストとしても活躍。新国立劇場では『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』スザンナ/バルバリーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『パルジファル』小姓1、『ジークフリート』森の小鳥、『魔笛』パパゲーナ、『ペレアスとメリザンド』イニョルド、『ボリス・ゴドゥノフ』クセニア、高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『ドン・パスクワーレ』ノリーナ、『魔笛』パミーナなどに出演。23/24シーズン『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナに出演予定。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

パパゲーナ:種谷典子(ソプラノ)

Papagena : TANETANI Noriko

国立音楽大学および同大学院を首席で修了。学部卒業時に武岡賞、大学院修了時に声楽専攻最優秀賞受賞。新国立劇場オペラ研修所第16期修了。文化庁新進芸術家海外研修員としてミラノおよびルガーノにて研鑽を積む。第24回リッカルド・ザンドナイ国際コンクール特別賞受賞。第16回東京音楽コンクール声楽部門第2位。第91回日本音楽コンクール声楽部門（歌曲）第2位。オペラでは『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『なりゆき泥棒』ベレニーチェ、『こうもり』アデーレなどに出演。2021年『魔笛』パパゲーナで二期会デビュー、続いて22年の二期会『フィガロの結婚』スザンナで一躍注目を集める。日生劇場『セビリアの理髪師』、東京文化会館オペラBOX『子どもと魔法』にも出演。23年には二期会『椿姫』にてヴィオレッタを演じ、今後の更なる活躍が期待されている。コンサートでも準・メルクル指揮台湾フィルハーモニック「合唱幻想曲」、マカオ国際音楽祭「第九」などのソリストとして高い評価を得ている。二期会会員。新国立劇場初登場。



パパゲーノ:駒田敏章(バリトン)

Papageno : KOMADA Toshiaki

愛知教育大学を経て東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期生としてオペラを学ぶ。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教師などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンに留学。12年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭 にラヴェル『スペインの時』ラミーロで出演し、Labberte-Hoedemaker Awardを受賞。第83回日本音楽コンクール(歌曲)第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアン、『ジュリオ・チェーザレ』クーリオ、『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチ/役人、『ラ・ボエーム』ショナール、高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『魔笛』パパゲーノに出演。23/24シーズンは『トリスタンとイゾルデ』舵取りに出演予定。



さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer

●会員先行販売期間：2024年10/26(土)~11/4(月・休)

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●一般発売日：2024年11/9(土)

初演：1843年1月2日/ドレスデン宮廷歌劇場

作曲・台本：リヒャルト・ワーグナー

プロダクションについて

「オランダ人船長が神を罵った罪で永遠に海をさまよい続ける」という幽霊船伝説をもとに書かれた、ワーグナー初期28歳のオペラ。永遠に暗黒の海をさまようよう呪われたオランダ人船長を乙女ゼンタの愛と自己犠牲が救う物語で、この「愛による救済」はワーグナー生涯のテーマとなりました。ワーグナーが作風を確立し、のちの名作群への幕開けとなった傑作で、大オーケストラによる有名な序曲、オランダ人のモノローグ、ゼンタのバラードなど聴きどころも満載。音楽とドラマが密接に結びつき、幽霊船と若い恋人たちの物語が一気に展開するため、ワーグナー入門にもお勧めです。

マティアス・フォン・シュテークマン演出は明快で分かりやすいと定評があり、幽霊船の出現などのスペクタクル性も楽しめます。ワーグナーのオペラは難解ではないかと敬遠される方にこそお勧めしたい公演です。

指揮には特に後期ロマン派で名高い、世界有数の指揮者マルク・アルブレヒトが新国立劇場初登場。オランダ人には世界最高峰の“オランダ人歌い”であり、2012年新国立劇場の『さまよえるオランダ人』でも強烈なカリスマ性とダークな魅力で観客を虜にしたエフゲニー・ニキティンが再登場します。ゼンタには同役を得意とするエリザベート・ストリッド、エリックにイギリス出身の成長株のヘルデンテノール、ジョナサン・ストーンが出演します。



2012年公演より

あらすじ

【第1幕】ノルウェー船が入江に停泊していると、赤い帆の不気味な船が現れる。オランダ人船長の乗る幽霊船だ。悪魔に呪われたオランダ人船長は死ぬことを許されず、海をさまよっていた。そして7年に一度だけ上陸を許され、そのとき彼に永遠の貞節を誓う女性が現れれば救われるという。ノルウェー船の船長ダーラントはオランダ人の姿に気づき、幽霊とは知らず声をかける。オランダ人船長は、ダーラントの娘ゼンタを妻にもらえるなら全財産をあげようと提案する。金に目がくらんだダーラントはその申し出を受け入れる。

【第2幕】壁にかかるオランダ人船長の肖像画になぜか心惹かれるゼンタ。村の女性たちはみな糸を紡いでいるが、ゼンタは絵に見入って幽霊船の伝説を語り、船長を救えるのは自分だけと確信する。ゼンタを愛する狩人エリックは、ゼンタがオランダ人と共に海に旅立つ夢ばかり見ているので、気が気でない。そんなとき、船が帰港。ダーラントは、オランダ人をゼンタに紹介する。ゼンタは、恋い焦がれたオランダ人が目の前にいることに恍惚とし、彼に貞節を誓う。オランダ人はついに救われるときが来たことを確信する。ダーラントも金銀財宝が手に入ると喜ぶ。

【第3幕】ノルウェー船員たちは、一緒に祝杯を上げようとオランダ船員に声をかけるが、反応がない。次第に恐ろしい声が響き渡り、ノルウェー船員たちは逃げ出す。一方エリックは、かつては自分に愛を誓ったのに、出会ったばかりのオランダ人船長と結婚を決めてしまったゼンタを責める。その2人のやりとりを物陰から見ていたオランダ人は、ゼンタを諦め、再び海へ戻ろうとする。しかしゼンタはオランダ人への愛を固く誓い、海へ身を投げる。するとオランダ船は沈没。光に包まれたオランダ人とゼンタは永遠の救いを得るのだった。

リヒャルト・ワーグナー

さまよえるオランダ人

Richard WAGNER / Der fliegende Holländer

全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	マルク・アルブレヒト Marc ALBRECHT
演出 Production	マティアス・フォン・シュテークマン Matthias von STEGMANN
美術 Set Design	堀尾幸男 HORIO Yukio
衣裳 Costume Design	ひびのこづえ HIBINO Kodue
照明 Lighting Design	磯野 睦 ISONO Mutsumi
ダーラント Daland	松位 浩 MATSUI Hiroshi
ゼンタ Senta	エリザベート・ストリッド Elisabet STRID
エリック Erik	ジョナサン・ストートン Jonathan STOUGHTON
マリー Mary	金子美香 KANEKO Mika
舵手 Steuermann	伊藤達人 ITO Tatsundo
オランダ人 Holländer	エフゲニー・ニキティン Evgeny NIKITIN
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2025年	1月	19日(日) 14:00	22日(水) 18:30
		25日(土) 14:00	29日(水) 14:00
	2月	1日(土) 14:00	

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:マルク・アルブレヒト

Conductor : Marc ALBRECHT

ウィーンで学び、ウィーンとハンブルクでコレペティティトゥールを務めた後、マーラー・ユングENT管弦楽団でアバドのアシスタントを務める。ザクセン州立歌劇場カペルマイスターを経て、ダルムシュタット歌劇場音楽監督に就任。2006～11年ストラスプール・フィル芸術監督兼首席指揮者、11～20年オランダ国立オペラ及びネーデルラント・フィル首席指揮者。ベルリン・フィル、コンサートヘボウ管、ミュンヘン・フィル、サンタ・チェチーリア管、フランス国立管、クリーヴランド管、またベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、モネ劇場、パリ・オペラ座、バイロイト音楽祭などへ客演。オランダ国立オペラ在任中には、『魔笛』『フィデリオ』『マクベス』『ニュルンベルクのマイスタージנגー』などのほか、トロヤーン『オレスト』世界初演を指揮。オーディ演出『グレの歌』の初舞台上演、オーディ演出『ワルキューレ』も国際的な評価を獲得、16年インターナショナル・オペラ・アワード最優秀オペラハウス賞、19年には同賞最優秀指揮者賞を受賞。20年オランダ獅子勲章受章。23/24シーズンは、ベルリン・ドイツ・オペラ、ローマ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ネーデルラント・フィル、ベルリン・コンツェルトハウス管などに登場する。新国立劇場初登場。



演出:マティアス・フォン・シュテークマン

Production : Matthias von STEGMANN

ミュンヘン生まれ。テレビや映画の翻訳、台本、演出家、俳優として活動を開始。1991年よりバイロイト音楽祭に参加、以来第一演出助手を務める。2002年英国ロイヤルオペラ『ヴォツェック』、04年「ニーベルングの指環」（共にK.ウォーナー演出）でも演出補として参加するなど、多くの演出家の信頼を得ている。03年メトロポリタン歌劇場『後宮からの逃走』では太守セリムで出演。自ら音楽劇の執筆、演出も手掛けている。新国立劇場では開場記念公演『ローエン格林』でW.ワーグナーの演出助手を務めて以来、『アラベッラ』『魔笛』『サロメ』『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』『ニーベルングの指環』に参加。07年『さまよえるオランダ人』、08年『魔弾の射手』を演出。また、04年こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』の台本・演出を担当、大絶賛を博しウィーン国立歌劇場特設劇場、チューリヒ歌劇場でも上演された。近年では12年ミンデンオペラ劇場『トリスタンとイゾルデ』、13年バイロイト音楽祭『リエッツィ』の演出を手掛けている。



ダーラント:松位 浩(バス)

Daland : MATSUI Hiroshi

大阪音楽大学・同大学院、ベルリン芸術大学に学ぶ。1996年にドイツ・ザールラント州立劇場ザールブリュッケンに首席バス歌手として招聘され終身雇用契約となり現在に至る。オランダ、ルクセンブルク、スイス、オーストリア、フランスの劇場でもオペラ歌手としてデビュー。ARTHAUSよりデシェヴォフ作曲オペラ『氷と鋼』、ヘンデル作曲オペラ『アグリッピーナ』をリリース。そのほか国内外の多くの公共放送局より多数のオペラ作品の放送あり。昨今は現代作曲家のオペラ作品の初演に出演することも増えてきている。2012年より大阪音楽大学客員教授も務める。新国立劇場では『さまよえるオランダ人』ダーラント、『魔笛』ザラストロ、『オテロ』ロドヴィーコ、『フィガロの結婚』バルトロ、『運命の力』ガアルディアーン神父、『ラ・ボエーム』コッリーネに出演している。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ゼンタ:エリザベート・ストリッド(ソプラノ)

Senta : Elisabet STRID

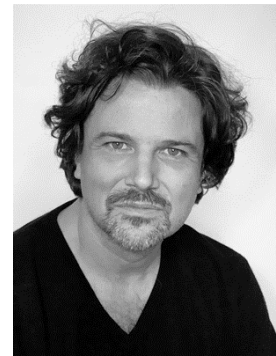
ワグナー、シュトラウスで高く評価されるスウェーデンのソプラノ。ストックホルム大学で学ぶ。ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、フランダース・オペラ、ラトヴィア国立オペラ、パイロイト音楽祭などで『タンホイザー』エリザベート、『ジークフリート』ブリュンヒルデ、『ルサルカ』タイトルロール、『スぺードの女王』リーザなどに出演。最も多く演じている役は、『ワルキューレ』ジークリンデ(シカゴ・リリック・オペラ、テアトロ・レアル、ノルウェー国立オペラ、スウェーデン王立歌劇場、ボローニャ歌劇場など)、『さまよえるオランダ人』ゼンタ(ミシガン・オペラ、ライブツィヒ歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、シュトゥットガルト州立歌劇場など)である。『トリスタンとイゾルデ』イゾルデはマエストランサ劇場でデビュー以来、デンマーク王立歌劇場、ジュネーヴ大劇場で出演。最近では、ポリショイ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、イスラエル・オペラ、ボローニャ歌劇場などで『サロメ』、デンマーク王立歌劇場、フィンランド国立歌劇場などで『エレクトラ』クリソテミスに出演。20年にはOpernwelt誌年鑑で、イェーテボリ・オペラ『ワルキューレ』ジークリンデにより最優秀歌手に選出された。新国立劇場初登場。



エリック:ジョナサン・ストートン(テノール)

Erik : Jonathan STOUGHTON

イギリスで最も注目のヘルデンテノール。『ナクソス島のアリアドネ』バッカスでデビュー、『ルサルカ』王子、『ジークフリート』タイトルロールで成功を収める。レパートリーはほかに『神々の黄昏』ジークフリート、『さまよえるオランダ人』エリック、『フィデリオ』フロレスタン、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ヴァルター・フォン・シュトルツィング、『カルメン』ドン・ホセ、『アイーダ』ラダメスなど。最近の出演に、オペラ・ノース『カヴァレリア・ルステイカーナ』トゥリッドゥ、プラハ国民劇場『ジョニーは演奏する』マックスなど。2020/21シーズンからマンハイム国民劇場専属歌手となり、『影のない女』皇帝、『魔弾の射手』マックス、バルジファル、エリック、シュトルツィング、バッカスなどに出演。22年同劇場の「ニーベルングの指環」新制作ではジークムント、ジークフリートに出演、同年の韓国ツアーではテノールの主要な役をすべて担った。23年、アウグスブルク歌劇場『フィデリオ』フロレスタンに出演。同年パイロイト音楽祭の子供のための『バルジファル』タイトルロールに出演。23/24シーズンはベルン歌劇場『ジークフリート』タイトルロールにも出演予定。新国立劇場初登場。



マリー:金子美香(メゾソプラノ)

Mary : KANEKO Mika

東京音楽大学声楽演奏家コースを首席で卒業、同大学院声楽専攻修了。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院マスタークラス修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第18回奏楽堂日本歌曲コンクール第3位入賞。第15回日仏声楽コンクール第2位及び日本歌曲賞受賞。2008年二期会『ワルキューレ』グリムゲルデでデビュー。10年東京二期会『オテロ』エミーリア、同『魔笛』侍女Ⅲのほか、東京・春・音楽祭には14年『ラインの黄金』フロスヒルデ、15年『ワルキューレ』シュヴェルトライテ、17年『神々の黄昏』フロスヒルデ/第一のノルンで出演。18年にはパイロイト音楽祭『ワルキューレ』グリムゲルデに出演という快挙を成し遂げた。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『カルメン』メルセデス、『さまよえるオランダ人』マリー(歌唱のみ)、『ジュリオ・チェーザレ』セスト、『ボリス・ゴドゥノフ』乳母に出演している。オペラのほか、オーケストラコンサートや、日本歌曲のリサイタルでも高い評価を得ている。平成24年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

オランダ人:エフゲニー・ニキティン(バス・バリトン)

Holländer : Evgeny NIKITIN

ロシア北部ムルマンスク出身。ヘヴィーメタルバンドで活躍後オペラ歌手に転向。 Санктペテルブルク音楽院に入りマリインスキー劇場とソリストとして契約、欧米の主要劇場や音楽祭に招かれるようになる。最近の主な出演にパリ・オペラ座『ホヴァンシチナ』シャクロヴィートゥイ、メトロポリタン歌劇場、テアトロ・レアル、カナディアン・オペラ・カンパニー、ライブツイヒ歌劇場、新国立劇場『さまよえるオランダ人』、メトロポリタン歌劇場『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、ソフィア王妃芸術宮殿『パルジファル』アムフォルタス、チューリヒ歌劇場、オランダ国立オペラ『サロメ』ヨハナーン、ウィーン国立歌劇場『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『ローエングリン』テルラムント、バーデン・バーデン音楽祭『トスカ』スカルピア、『ドン・カルロ』フィリッポⅡ世、ザルツブルク音楽祭『イオランダ』イブン・ハキアなど。マリインスキー劇場へはボリス・ゴドゥノフ、フィリッポ二世、オランダ人、アムフォルタス、ヴォータン/さすらい人、ドン・ジョヴァンニなどの得意役で出演を重ねている。新国立劇場へは2012年『さまよえるオランダ人』以来の登場となる。



フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ

Eine florentinische Tragödie / Gianni Schicchi

オペラパレス | 4回公演

『フィレンツェの悲劇』全1幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)
『ジャンニ・スキッキ』全1幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2024年11/23(土・祝)~12/2(月)

●一般発売日: 2024年12/7(土)

【フィレンツェの悲劇/Eine florentinische Tragödie】

初演: 1917年1月30日/シュトゥットガルト宮廷劇場

作曲・台本: アレクサンダー・ツェムリンスキー

原作: オスカー・ワイルド

【ジャンニ・スキッキ/Gianni Schicchi】

初演: 1918年12月14日/メトロポリタン歌劇場

作曲: ジャコモ・プッチーニ

原作: ダンテ・アリギエーリ

台本: ジョヴァッキーノ・フォルツァーノ

プロダクションについて

レパトリーの拡充を目指して制作した“フィレンツェ・ダブルビル”を再演。ともに20世紀初頭を代表する作曲家ツェムリンスキーとプッチーニの秀作を、奥深い芸術の町フィレンツェをキーワードにカップリングしたダブルビルです。

『フィレンツェの悲劇』は、耽美的で豊麗な音楽で知られるツェムリンスキーの代表作。デカダンス文学の旗手オスカー・ワイルドの戯曲を原作に、夫婦と妻の愛人の3人が繰り広げる奇妙な悲劇を描きます。ツェムリンスキーはマーラーに見出されて世紀転換期のウィーンで活躍した作曲家で、豊潤な前奏曲や終盤の官能的な二重唱では、後期ロマン派ならではの色彩豊かで壮麗な音楽が堪能できます。一方の『ジャンニ・スキッキ』は富豪の遺産相続をめぐる強欲な人間たちの騒動と若いカップルの恋をテンポよく描いたプッチーニ晩年の1幕物。『三部作』を締めくくるとびきりの喜劇です。ラウレッタのアリア「私のお父さん」は、ソプラノの名曲としてコンサートで歌われることも多く、テレビCMなどでもお馴染みの人気曲です。

『フィレンツェの悲劇』のキャストには、艶やかな声と深い表現力で圧倒的人気を誇るバリトンのスター、トーマス・ヨハネス・マイヤーと、強靱で輝かしい声を誇るテノール歌手デヴィッド・ポメロイ、輝かしく強い声と繊細な表現でブリュンヒルデ歌いとして躍進中のソプラノ、ナンシー・ヴァイスバッハという贅沢な顔合わせ。『ジャンニ・スキッキ』タイトルロールにはイタリアの実力派バリトンのピエトロ・スパニョーリが登場します。指揮は初演も担当した沼尻竜典です。



2019年公演より

あらすじ

【フィレンツェの悲劇】織物商人シモーネが旅から帰ると、妻ビアンカの許にフィレンツェ公爵の息子グイード・バルディがいる。シモーネは状況を疑いながらも、グイードにへつらい、商品を売りつけようとする。グイードはビアンカを所望する。シモーネは夕食を供するが、二人の様子を見て浮気の疑いを強め、席を立つ。帰ろうとするグイードはビアンカに長いキスをし、ビアンカは愛を誓う。これを見ていたシモーネとグイードは決闘で剣を交え、最後にシモーネがグイードを絞め殺す。ビアンカはシモーネの強さに恍惚とし、二人はグイードの死骸の上で見つめあう。

【ジャンニ・スキッキ】裕福な商人ブオーゾ・ドナーティはまさに死んだばかり。親戚が集まって悲しんでいるが、実は皆考えていることは遺産のこと。甥のリヌッチョは遺言状を見つけ、それをかたにジャンニ・スキッキの娘ラウレッタとの結婚を認めるように伯母ツイータに迫る。ツイータはしぶしぶ認め、いざ遺言状を開くが「遺産は修道院に」と書かれている。皆は書き換えてしまおうとたくらみ、それをジャンニ・スキッキに依頼する。現れたジャンニ・スキッキは断るが、かわいい娘のラウレッタに頼まれ引き受ける。しかしブオーゾになりすまして遺言を口述する段になると、「すべてはジャンニ・スキッキに遺す」と言い出す。親戚たちは怒り狂うがすでに後の祭り。最後にジャンニ・スキッキが口上を述べ幕が降りる。

アレクサンダー・ツェムリンスキー／ジャコモ・プッチーニ

フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ

Alexander ZEMLINSKY “Eine florentinische Tragödie” / Giacomo PUCCINI “Gianni Schicchi”

『フィレンツェの悲劇』全1幕(ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付)

『ジャンニ・スキッキ』全1幕(イタリア語上演／日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	沼尻竜典 NUMAJIRI Ryusuke
演出 Production	粟國 淳 AGUNI Jun
美術 Set Design	横田あつみ YOKOTA Atsumi
衣裳 Costume Design	増田恵美 MASUDA Emi
照明 Lighting Design	大島祐夫 OSHIMA Masao

【フィレンツェの悲劇／Eine florentinische Tragödie】

ガイド・バルディ Guido Bardi	デヴィッド・ポメロイ David POMEROY
シモーネ Simone	トーマス・ヨハネス・マイヤー Thomas Johannes MAYER
ビアンカ Bianca	ナンシー・ヴァイスバッハ Nancy WEISSBACH

【ジャンニ・スキッキ／Gianni Schicchi】

ジャンニ・スキッキ Gianni Schicchi	ピエトロ・スパニョーリ Pietro SPAGNOLI
ラウレッタ Lauretta	三宅理恵 MIYAKE Rie
ツィータ Zita	与田朝子 YODA Asako
リヌッチョ Rinuccio	村上公太 MURAKAMI Kota
ゲラルド Gherardo	青地英幸 AOCHI Hideyuki
ネッラ Nella	針生美智子 HARIU Michiko
ベット・ディ・シーニャ Betto di Signa	志村文彦 SHIMURA Fumihiko
シモーネ Simone	河野鉄平 KONO Teppei
マルコ Marco	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi
チェスカ La Ciesca	中島郁子 NAKAJIMA Ikuko
スピネロッツォ先生 Maestro Spinelloccio	畠山 茂 HATAKEYAMA Shigeru

アマンティオ・ディ・ニコラオ 清水宏樹
 Ser Amantio di Nicolao SHIMIZU Hiroki

ピネッリーノ 大久保惇史
 Pinellino OKUBO Atsushi

グッチョ 水野 優
 Guccio MIZUNO Yu

ほか

管弦楽 東京交響楽団
 Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

2025年	2月	2日(日)14:00	4日(火)14:00
		6日(木)18:30	8日(土)14:00

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:沼尻竜典

Conductor : NUMAJIRI Ryusuke

神奈川県フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督、びわ湖ホール桂冠芸術監督。1990年ブザンソンコンクール優勝。ロンドン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、ベルリン・コンツェルトハウス管、フランス放送フィル、ミラノ・ヴェルディ響など世界各国のオーケストラに客演。国内ではNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、多くのポストを歴任。ドイツではリュベック歌劇場音楽総監督を務め、数々の名演を残す。ケルン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、バーゼル歌劇場、シドニー歌劇場などへも客演。16年間芸術監督を務めたびわ湖ホールでは、『ニーベルングの指環』を含め、ワーグナーの主要10作品を指揮した。2014年、横浜みなとみらいホールの委嘱でオペラ『竹取物語』を作曲・初演。出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、毎日芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞、ENEOS音楽賞洋楽部門本賞などを受賞。紫綬褒章受章。新国立劇場では『カルメン』『フィガロの結婚』『鹿鳴館』『トスカ』『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』『修道女アンジェリカ／子どもと魔法』、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』『トスカ』を指揮している。



演出:粟國 淳

Production : AGUNI Jun

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H.ブロックハウスのもとで研鑽を積み、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。1997年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイダ』『オテロ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』『ノルマ』、日生劇場『アイナダマール』（日本初演）『セビリアの理髪師』『マクベス』、紀尾井ホール『オリンピックアデ』など多数の作品を演出。海外ではサッサリ・ヴェルディ劇場『アンドレア・シェニエ』『エルナーニ』、スロベニア国立マリボール歌劇場『ホフマン物語』を演出。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』『チェネレントラ』『修道女アンジェリカ／子どもと魔法』などを演出。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所プログラムアドバイザー兼アルテ・シェニカ講師。エクソンモービル音楽賞奨励賞受賞。



ガイド・バルディ(フィレンツェの悲劇):デヴィッド・ポメロイ(テノール)

Guido Bardi : David POMEROY

カナダのテノール。『ファウスト』タイトルロール、『ホフマン物語』タイトルロールでメトロポリタン歌劇場にデビュー。アメリカ、ヨーロッパを中心に活躍し、カナディアン・オペラ・カンパニー、バンクーバー・オペラ、カルガリー・オペラ、モントリオール・オペラ、マニトバ・オペラ、ニューヨーク・シティ・オペラ、メトロポリタン歌劇場、フランクフルト歌劇場、シュトゥットガルト州立劇場などで『カルメン』ドン・ホセ、『椿姫』アルフレード、『トスカ』カヴァラドッシ、『蝶々夫人』ピンカートン、『死の都』パウルなどに出演。近年では、シュトゥットガルト州立劇場、リセウ大劇場『ナクソス島のアリアドネ』バッカス、バンクーバー・オペラ『ファウスト』タイトルロール、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥ、サンパウロ市立劇場『アイダ』ラダメス、エドモントン・オペラ『トスカ』カヴァラドッシ、カルガリー・オペラ『カルメン』ドン・ホセに出演している。新国立劇場へは19年オペラ夏の祭典『トゥーランドット』カラフでデビューした。

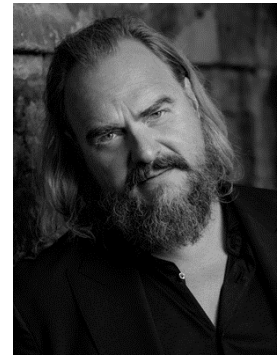


主要キャスト・スタッフ プロフィール

シモーネ(フィレンツェの悲劇):トーマス・ヨハネス・マイヤー(バリトン)

Simone : Thomas Johannes MAYER

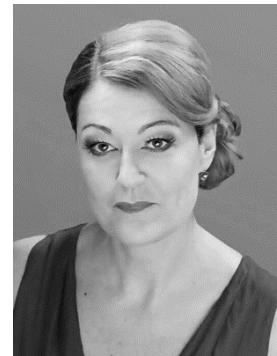
ドイツのバリトン。ケルン音楽大学でクルト・モルに学ぶ。リヒャルト・シュトラウスとワーグナーを中心に、オランダ国立オペラ、モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭などの主要劇場に出演を重ねる。最近の出演に、新国立劇場『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックス（ロールデビュー）、オランダ国立オペラ『マハゴニー市の興亡』モーゼス、『ローエン格林』テルラムント、テアトロ・レアル『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、ベルリン・ドイツ・オペラ『宝を探す人』廷吏、ライブツィヒ歌劇場『ワルキューレ』ヴォータン、シュトゥットガルト州立劇場『ワルキューレ』『ジークフリート』ヴォータン／さすらい人、パイロイト音楽祭、ハンブルク州立歌劇場『さまよえるオランダ人』タイトルロールなどがある。新国立劇場では『ヴォツェック』タイトルロール、『アラベッラ』マンドリカ、『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックスに出演している。



ビアンカ(フィレンツェの悲劇):ナンシー・ヴァイスバッハ(ソプラノ)

Bianca : Nancy WEISSBACH

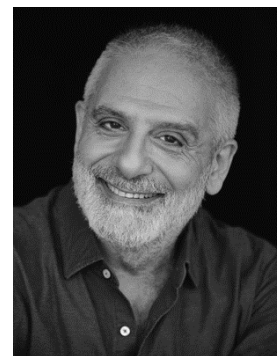
ベルリン生まれ。生地で音楽を学び、ワイマールのリスト音楽院、デン・ハーグ王立音楽院で学ぶ。フランスで『ディドとエネアス』のディドに出演してデビュー。ストラズブル・ラン歌劇場、ミュルーズ音楽祭で『エレクトラ』クリソテミスを歌い、同役をモネ劇場、マンハイム国民劇場、ヴァイマル国民劇場でも歌う。ワロン歌劇場で『神々の黄昏』グートルレーネと第3のノルン、モンテカルロ歌劇場『さまよえるオランダ人』ゼンタ、ニュルンベルク歌劇場、ケルン歌劇場、『ばらの騎士』元帥夫人、トリエステ・ヴェルディ劇場エルル・チロル音楽祭『タンホイザー』エリザベート、パレルモ・マッシモ劇場『ワルキューレ』ヘルムヴィーゲなどに出演。2014年以來、エルル・チロル音楽祭で『ジークフリート』ブリュンヒルデに出演を重ね、上海でも同役に出演。オルデンブルク歌劇場の「ニーベルングの指環」四部作では『ワルキューレ』『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデに出演。またカッセル歌劇場、クラーゲンフルト歌劇場の「ニーベルングの指環」でも『ワルキューレ』ブリュンヒルデに出演している。新国立劇場初登場。



ジャンニ・スキッキ(ジャンニ・スキッキ):ピエトロ・スパニョーリ(バリトン)

Gianni Schicchi : Pietro SPAGNOLI

モーツァルト、ロッシニなどの主要な役でウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラなどの著名劇場で活躍するバリトン。主な出演に、メトロポリタン歌劇場『チェネレントラ』ドン・マニフィコ、『愛の妙薬』ドゥルカマール、バイエルン州立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、ウィーン国立歌劇場『チェネレントラ』ドン・マニフィコ、『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、モネ劇場『ドン・パスクワーレ』タイトルロールなど。ザクセン州立歌劇場『運命の力』フラ・メリトーネ、バーリ・ペトルツェッリ劇場『蝶々夫人』シャープレス、ハンブルク州立歌劇場『ファルスタッフ』タイトルロールでも成功を収める。2022/23シーズンはスカラ座『秘密の結婚』、チューリヒ歌劇場『劇場の都合、不都合』、ウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場『チェネレントラ』、ビルパオ・オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』、ハンブルク州立歌劇場、テアトロ・レアル『イタリアのトルコ人』などに出演。さらにサンティアゴ市立劇場『ランスへの旅』、ワロン歌劇場『ファルスタッフ』、スカラ座『つばめ』に出演している。新国立劇場では17年『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵に出演した。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ラウレッタ(ジャンニ・スキッキ):三宅理恵(ソプラノ)

Lauretta : MIYAKE Rie

東京音楽大学卒業、同大学院修了。バード音楽院特待奨学生修士課程修了。ドーン・アップショウに師事。これまでに小澤征爾音楽塾『カルメン』フラスキータ、日生劇場『フィデリオ』マルチェリーネ、NHK交響楽団『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、藤倉大作曲『ソラリス』（日本初演）ハリー、東京二期会『ファルスタッフ』ナンネッタなどに出演。オペラ以外にも、フォーレ『レクイエム』、シューベルト『ミサ曲第5番 変イ長調』、モーツァルト『レクイエム』、ブラームス『ドイツ・レクイエム』、カール・ジェンキンス『レクイエム』、アンドリュー・ロイド・ウェバー『レクイエム』など宗教曲のソリストとしても活躍。新国立劇場では『パルジファル』花の乙女、高校生のためのオペラ鑑賞教室『愛の妙薬』ジャンネッタ、「『ジークフリート』ハイライトコンサート」森の小鳥などに出演を重ね、最近では『夜鳴きうぐいす』タイトルロール、『スーパーエンジェル』エリカ、『魔笛』パパゲーナ、『オルフェオとエウリディーチェ』アモーレ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『子どもと魔法』火・お姫様・夜鳴き鶯に出演。二期会会員。



ツィータ(ジャンニ・スキッキ):与田朝子(メゾソプラノ)

Zita : YODA Asako

国立音楽大学卒業。二期会オペラスタジオ修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。これまでに『フィガロの結婚』マルチェリーナ、『ファルスタッフ』クイックリー夫人、『蝶々夫人』スズキ、『ばらの騎士』アンニーナ、『イエヌーファ』女主人、『エウゲニ・オネーギン』ラーリナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァなどを演じている。近年では日生劇場『ルサルカ』イエジババ、『ルチア』アリーサ、二期会『修道女アンジェリカ』公爵夫人、『ジャンニ・スキッキ』ツィータなどに出演。新国立劇場では『セビリアの理髪師』ベルタ、『リゴレット』ジョヴァンナ、『椿姫』アンニーナ、『ルル』その母、『アラベッタ』カルタ占い、『沈黙』おまつ、『イエヌーファ』村長夫人、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』スズキに出演している。二期会会員。



リヌッチョ(ジャンニ・スキッキ):村上公太(テノール)

Rinuccio : MURAKAMI Kota

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラに立て続けに客演し好評を博す。東京二期会『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロート、日生劇場『後宮からの逃走』ペドリッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、サントリーホール『リトゥン・オン・スキン』第3の天使／ヨハネ、グランドオペラ共同制作『カルメン』レメンダード、横須賀芸術劇場『リゴレット』マントヴァ公爵などに出演。新国立劇場では『こうもり』アルフレード、『カルメン』レメンダード、『ファルスタッフ』フェントン、『夏の夜の夢』ライサンダー、『イオランタ』アルメリック、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』クッツ・フォーゲルゲザング、『蝶々夫人』ピンカートン、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』ドン・ホセ、同『蝶々夫人』ピンカートンなどに出演。二期会会員。



カルメン

Carmen

●会員先行販売期間：2024年12/21(土)~12/30(月)

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

●一般発売日：2025年1/5(日)

初演：1875年3月3日/パリ・オペラ＝コミック座

作曲：ジョルジュ・ビゼー

原作：プロスペル・メリメ

台本：アンリ・メイヤック、リュドヴィク・アレヴィ

プロダクションについて

世界中で人気オペラの筆頭に挙がる人気作中の人気作。活気あふれる前奏曲、カルメンの登場で歌われる「ハバナラ」、ホセを誘惑する「セギディーリャ」、スペイン情緒みなぎるスペクタクルな「ジプシーの歌」、華やかな「闘牛士の歌」など、誰しもおなじみの名曲にのせ、自由奔放な女カルメンと一途な男ドン・ホセによる愛と死の運命のドラマが繰り広げられます。ビゼーの音楽にはフランス・ロマン派の魅惑的な響きと、スペインの民族色を取り入れた情熱的な音楽が融合し、観客を熱狂させます。

新国立劇場で2021年に新制作したアレックス・オリエ版『カルメン』は、オリエらしいスペクタクル性と、観客を唸らせる斬新な解釈が詰まった舞台。現代的で知的、勇気と反骨心を持って自由に生きる女性カルメンと、独占欲が強く嫉妬深く、拒絶を受け入れられない男ホセの恋物語、そして今日どこにでも起こり得る悲劇となって、特に若い世代の共感を呼びました。21年の新制作では新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じた演出で上演したため、今回の上演では制約を外した演出に練り直して上演します。

注目のカルメン役には、強さと柔らかさを併せ持つ美声とドラマティックな表現力でスター街道を駆け上るサマンサ・ハンキーが登場。ドン・ホセ役に登場する、欧米で急成長中のブラジル人テノール、アタラ・アヤンも見逃せません。エスカミーリョにはエスカミーリョ歌い、ロジェ王歌いとして活躍するルーカス・ゴリンスキーが出演します。指揮は22年『さまよえるオランダ人』『愛の妙薬』に急遽登場、ワーグナー、バルカントそれぞれの美点を捉えた演奏が絶賛されたガエタノ・デスピノーサです。



2021年公演より

あらすじ

【第1幕】タバコ工場前の広場には女目当てに男たちが集まっている。彼らの一番人気はカルメン。奔放な態度で男を魅了するが、衛兵の伍長ドン・ホセは彼女に関心がない。そんなホセをからかってカルメンは花を投げつける。呆然とするホセのもとに、母の手紙を持って故郷から許婚のミカエラが来る。懐かしさに浸っていると、工場内で喧嘩が勃発。騒ぎの張本人カルメンは連行されるが、脱走しようとホセを誘惑。ホセはカルメンの縄を解き、結果、脱走補助の罪で捕まってしまう。

【第2幕】酒場に人気闘牛士エスカミーリョが来てカルメンを口説くが、彼女は相手にしない。釈放されたホセをカルメンが踊りでもてなしていると、帰郷の時刻に。カルメンを愛しているながらも帰ろうとする真面目なホセだが、鉢合わせした上官スニガに刃向かってしまう。スニガはカルメンの密輸団仲間ダンカイロらに捕らえられ、ホセは密輸団に加わる決意をする。

【第3幕】人気のない岩山にいる密輸団。カルメンはすでにほかの男に心移りしているようで、ホセにつれない態度を取る。女たちはカルタ占いに興じるが、カルメンが占うと、自分もホセも死ぬという結果に、愕然とする。そんなとき、ホセの母が危篤だとミカエラが知らせにやってくる。ホセは、ミカエラとともに故郷に帰る。エスカミーリョの恋人になったカルメンは、試合を見に闘牛場へ。ホセも故郷から戻り、彼女を探していた。闘牛場の外で対峙する2人。やり直そうと迫るホセに、カルメンは、自由に生まれて自由に死ぬと言い放ち、ホセからもらった指輪を投げつける。思い余ったホセはカルメンを刺す。ホセは、倒れたカルメンの上に泣き崩れる。

ジョルジュ・ビゼー

カルメン

Georges BIZET / Carmen

全3幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	ガエタノ・デスピノーサ Gaetano D'ESPINOSA
演出 Production	アレックス・オリエ Àlex OLLÉ
美術 Set Design	アルフォンス・フローレス Alfons FLORES
衣裳 Cosutume Design	リュック・カステイス Lluc CASTELLS
照明 Lighting Design	マルコ・フィリベック Marco FILIBECK
カルメン Carmen	サマンサ・ハンキー Samantha HANKEY
ドン・ホセ Don José	アタラ・アヤン Atalla AYAN
エスカミーリヨ Escamillo	ルーカス・ゴリンスキー Lukasz GOLINSKI
ミカエラ Micaëla	伊藤 晴 ITO Hare
スニガ Zuniga	田中大揮 TANAKA Taiki
モラレス Moralès	森口賢二 MORIGUCHI Kenji
ダンカイロ Le Dancaïre	成田博之 NARITA Hiroyuki
レメンダード Le Remendado	糸賀修平 ITOGA Shuhei
フラスキータ Frasquita	富平安希子 TOMIHIRA Akiko
メルセデス Mercédès	十合翔子 SOGO Shoko
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2025年	2月	26日(水) 18:30	
	3月	1日(土) 14:00	4日(火) 14:00
		6日(木) 14:00	8日(土) 14:00

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:ガエタノ・デスピノーサ

Conductor : Gaetano D'ESPINOSA

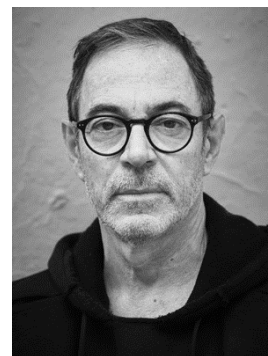
イタリア・パレルモで生まれ、ピアノ、ヴァイオリン、作曲を学ぶ。1992年ヴィットリオ・ヴェネト、96年ロヴェレ・ドーロ国際音楽コンクールで最高位を獲得し、ヴァイオリニストとしてキャリアをスタート。2003年から08年までザクセン州立歌劇場コンサートマスターを務める。ファビオ・ルイーゴと出会い08年以降指揮者としての活動に専念、クレメラータ・パルティカ、プラハ・フィルハーモニア管弦楽団などに客演。フェニーチェ歌劇場管弦楽団、フィレンツェ五月祭管弦楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、トリノRAI交響楽団などに一気にデビューを飾る。オペラでは10年ザクセン州立歌劇場『椿姫』、翌年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『道化師』を指揮し成功を収め、リヨン歌劇場、グラーツ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ローマ歌劇場、ザクセン州立歌劇場などに登場。13年～17年、ミラノ・ヴェルディ交響楽団首席客演指揮者。NHK交響楽団などに招かれ度々来日しており、16年あいちトリエンナーレ『魔笛』、17年二期会『蝶々夫人』を指揮している。新国立劇場では22年『さまよえるオランダ人』『愛の妙薬』を指揮している。



演出:アレックス・オリエ

Production : Àlex OLLÉ

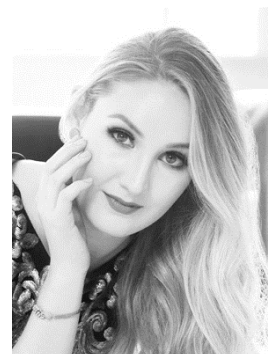
バルセロナ生まれ。パフォーマンス集団ラ・フーラ・デルス・バウスの6人の芸術監督の一人で、同カンパニーは世界的な評価を確立した。カルルス・パドリッサと共同演出したバルセロナ・オリンピック開会式をはじめとする大規模イベントや、演劇、映画と多くの分野で活動している。近年ではオペラの演出で特に活躍し、ザルツブルク音楽祭、ウィーン芸術週間、マドリッド・テアトロ・レアル、リセウ大劇場、パリ・オペラ座、モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ザクセン州立歌劇場、ルールトリエンナーレ、ネザーランド・オペラ、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、オーストラリア・オペラなど世界中で活躍、『魔笛』『ノルマ』『仮面舞踏会』『イル・トロヴァトーレ』『ファウストの劫罰』『トリスタンとイゾルデ』『さまよえるオランダ人』『ペレアスとメリザンド』『ラ・ボエーム』『蝶々夫人』『青ひげ公の城』『消えた男の日記』『マハゴニー市の興亡』『火刑台上のジャンヌ・ダルク』など幅広い作品を手掛けている。新国立劇場では2019年『トゥーランドット』（東京文化会館共同制作）、21年『カルメン』を演出している。



カルメン:サマンサ・ハンキー(メゾソプラノ)

Carmen : Samantha HANKEY

ジュリアード音楽院で学士号と修士号を取得した後、グラインドボーン・カップやオペラリア・コンクール、メトロポリタン歌劇場ナショナル・カウンシル・オーディションなどに数多く入賞。2019年～21年にはバイエルン州立歌劇場と契約し、数多くの役に出演するとともに、チューリヒ歌劇場、ノルウェー国立オペラ、ジュネーヴ大劇場、ダラス・オペラなどにデビュー。その後、スコティッシュ・オペラ『アイナダマール』フェデリコ・ガルシア・ロルカ、シカゴ・リリック・オペラ『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、サンタフェ・オペラ『ペレアスとメリザンド』メリザンド、メトロポリタン歌劇場『ばらの騎士』オクタヴィアンに出演。23/24シーズンは、英国ロイヤルオペラ、チューリヒ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、ザクセン州立歌劇場『フィガロの結婚』ケルビーノ、デトロイト・オペラ『利口な女狐の物語』男狐、カンザスシティ・リリック・オペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、メトロポリタン歌劇場『ロメオとジュリエット』ステファノに出演する。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ドン・ホセ: アタラ・アヤン(テノール)

Don José : Atalla AYAN

ブラジル出身の注目のテノール。2007年、母国ペレンの平和劇場『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョでデビュー。翌年ギリシャ国立歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォに出演。ボローニャ歌劇場イタリア・オペラ研修所、メトロポリタン歌劇場リンデマン・ヤング・アーティストプログラムを経て、シュトゥットガルト州立歌劇場専属歌手となり多くの役に出演。11年にはオープニング・ガラコンサートに急遽出演しメトロポリタン歌劇場デビューを果たす。『ラ・ボエーム』ロドルフォでパリ・オペラ座、コロソポル歌劇場、オランダ国立オペラ、カナディアン・オペラ・カンパニー、スウェーデン王立歌劇場などにデビュー。同役は英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場などでも出演。『椿姫』アルフレードは、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場、メトロポリタン歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、ノルウェー国立オペラなどで出演。ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場『愛の妙薬』ネモリーノ、オーストラリア・オペラ『リゴレット』マントヴァ公爵、パリ・オペラ座『マノン』デ・グリユーなどにも出演している。23/24シーズンはシュトゥットガルト州立歌劇場で『トスカ』カヴァラドッシ、『カルメン』ドン・ホセ、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコに出演。新国立劇場初登場。



エスカミーリョ: ルーカス・ゴリンスキー(バス・バリトン)

Escamillo : Lukasz GOLINSKI

ポーランド出身。ポーランド国立歌劇場に出演を重ねるほか、近年では、英国ロイヤルオペラ『サムソンとデリラ』ダゴンの大祭司、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、スウェーデン王立歌劇場『サロメ』ヨハンナ、リセウ大劇場『スベードの女王』トムスキー伯爵、サヴォンリンナ音楽祭、ブラハ国民劇場『椿姫』ジェルモン、ザルツブルク音楽祭『ボリス・ゴドゥノフ』ピーメン、フランクフルト歌劇場、スウェーデン王立歌劇場『トスカ』スカルピア、ザルツブルク音楽祭『ギリシャ受難劇』フォティス、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ブラハ国民劇場『カルメン』エスカミーリョなど出演。『ロジェ王』タイトルロールではサンタ・チェチーリア管、フランクフルト歌劇場、ポーランド国立歌劇場、ブラハ国民劇場に招かれ「完璧なロジェ王」と絶賛される。エクサン・プロヴァンス音楽祭、ポーランド国立歌劇場『炎の天使』では大野和士と共演した。2023/24シーズンは英国ロイヤルオペラ『エレクトラ』オレスト、ハンブルク州立歌劇場『椿姫』ジェルモン、シュトゥットガルト州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、グライントボン音楽祭『カルメン』エスカミーリョ、ポーランド国立歌劇場『蝶々夫人』シャープレス、『椿姫』ジェルモンに出演。新国立劇場初登場。



ミカエラ: 伊藤 晴(ソプラノ)

Micaela : ITO Hare

三重大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第25期生修了。ミラノ、パリで研鑽を積み、2013年パリ地方音楽院修了。第9回藤沢オペラコンクール第2位。小澤征爾音楽塾子どものためのオペラ『子どもと魔法』『ジャンニ・スキッキ』など出演し、いずれも高い評価を得ている。藤原歌劇団には『ラ・ボエーム』ムゼッタでデビューし、『カルメン』『ラ・トラヴィアータ』『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』を東京・愛知公演で熱演、藤原歌劇団・NISSAY OPERA 2021公演『蝶々夫人』ではタイトルロールを務め、その後同役は青森・宮城・群馬公演でも絶賛を浴びた。また日本オペラ協会には『天守物語』亀姫でデビューし、『夕鶴』つうも見事に演じた。コンサートでは、小澤征爾、チョン・ミョンフン、A.パティエスターら著名な指揮者やオーケストラとの共演も多い。新国立劇場では『修道女アンジェリカ』オスミーナ、『こうもり』イーダに出演。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。愛知県立芸術大学、名古屋音楽大学各講師。



蝶々夫人

Madama Butterfly

オペラパレス | 4回公演 | 全2幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2025年2/8(土)~2/17(月)

●一般発売日: 2025年2/22(土)

初演:1904年2月17日/ミラノ・スカラ座

作曲:ジャコモ・プッチーニ

原作:デーヴィッド・ベラスコ

台本:ジュゼッペ・ジャコーザ、ルイーヂ・イツリカ

プロダクションについて

明治時代の長崎を舞台にした蝶々さんの愛と哀しい運命の物語が、プッチーニならではの美しくストレートに心に響く音楽で描かれる『蝶々夫人』は、世界中で観客の涙を誘っている人気オペラです。日本が舞台とあって日本では特に人気が高く、新国立劇場でも最も頻繁に上演されています。アメリカ士官ピンカートンに一途な愛を捧げる蝶々さんの悲劇が、栗山民也演出により、国と国の関係が落とす影を感じさせる、鋭く雄弁なドラマとして迫ります。心揺さぶるドラマはオペラ初心者にもお薦め。一度は劇場で観てみたい名作です。

蝶々夫人を演じるのは、ドラマティックな声と情感豊かな表現、そして近年特に充実した活動が高く評価され、新国立劇場での『ドン・カルロ』エリザベッタ、『ワルキューレ』ジークリンデも絶賛された小林厚子。近年日本各地で歌い、“理想の蝶々さん”と評判の蝶々夫人役を、新国立劇場のシーズン公演で初めて披露します。ピンカートンにはアメリカの新星テノール、ホセ・シメリーリャ・ロメロ、シャープレスには躍進中のイタリア人ブルーノ・タッディアが出演します。



2019年鑑賞教室公演より

あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。日本滞在中、現地妻を娶ろうというアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに新居を案内され、使用人を紹介される。結婚も家もいつでも契約破棄できると豪語するピンカートン。結婚を心待ちにしている花嫁を知るアメリカ総領事シャープレスは、ピンカートンの軽薄さを心配する。花嫁行列がやってきて、美しい花嫁、蝶々さんが現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは15歳。裕福な武士の家の生まれだが父が切腹して亡くなり、今は芸者として生きている。結婚式が慎ましやかに行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2人は甘い夜を迎える。

【第2幕】ピンカートンがアメリカに帰国して3年。「駒鳥が巣を作る頃に帰る」との言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは再婚を勧めるが、蝶々さんは断る。というのも、ピンカートンとの間に子供が生まれていたのだ。帰国後ピンカートンがアメリカで本当の結婚をしたことを知るシャープレスは言葉もない。そしてついにピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花で満たして夫の到着を待つが、いつまでたってもやってこない。

スズキの勧めで蝶々さんが奥の部屋で休んでいると、ピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケートが訪れる。スズキの対応で蝶々さんの思いを知ったピンカートンは、堪らず立ち去る。目覚めた蝶々さんはケートを見てすべてを悟り、子供をアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子供に別れを告げ、自決。「蝶々さん！」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。

ジャコモ・プッチーニ

蝶々夫人

Giacomo PUCCINI / Madama Butterfly

全2幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	エンリケ・マッツォーラ Enrique MAZZOLA
演出 Production	栗山民也 KURIYAMA Tamiya
美術 Set Design	島 次郎 SHIMA Jiro
衣裳 Costume Design	前田文子 MAEDA Ayako
照明 Lighting Design	勝柴次朗 KATSUSHIBA Jiro
蝶々夫人 Madama Butterfly	小林厚子 KOBAYASHI Atsuko
ピンカートン Pinkerton	ホセ・シメリーリャ・ロメロ José Simerilla ROMERO
シャープレス Sharpless	ブルーノ・タッディア Bruno TADDIA
スズキ Suzuki	山下牧子 YAMASHITA Makiko
ゴロー Goro	糸賀修平 ITOGA Shuhei
ボンゾ Lo zio Bonzo	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
ヤマドリ Il principe Yamadori	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi
ケート Kate Pinkerton	佐藤路子 SATO Michiko
		ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2025年	5月	14日(水) 18:30	17日(土) 14:00
		21日(水) 14:00	24日(土) 14:00

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:エンリケ・マッツォーラ

Conductor: Enriqe MAZZOLA

シカゴ・リリック・オペラ音楽監督、ベルリン・ドイツ・オペラ首席客演指揮者、ブレゲンツ音楽祭レジデント指揮者。イタリア出身。ベルカント・オペラ並びにフランス・オペラ、初期ヴェルディの専門家として知られる。2012～19年イル・ド・フランス国立管弦楽団芸術監督兼音楽監督を務める。18年フランス芸術文化勲章シュヴァリエ叙勲。オペラでは、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、シャンゼリゼ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、フィレンツェ歌劇場、ミラノ・スカラ座、グラインドボーン音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、ザルツブルク音楽祭などに登場。最近では、ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワレ』、オランダ国立オペラ『アンナ・ボレーナ』などを指揮。23/24シーズンは、シカゴ・リリック・オペラ『さまよえるオランダ人』『チャンピオン』『アイダ』、ベルリン・ドイツ・オペラ『アンナ・ボレーナ』、オランダ国立オペラ『ロベルト・デヴリュー』、ブレゲンツ音楽祭『魔弾の射手』を指揮する。新国立劇場では12年『ドン・ジョヴァンニ』を指揮した。



演出:栗山民也

Production: KURIYAMA Tamiya

早稲田大学文学部演劇学科卒業。主な演出作品に『GHETTO/ゲットー』『きらめく星座』『海をゆく者』『組曲虐殺』『スリル・ミー』『ピアフ』『藪原検校』『アルカディア』『ディスグレイスト 恥辱』などがある。紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、毎日芸術賞、千田是也賞、朝日舞台芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞、菊田一夫演劇賞などを受賞。紫綬褒章、旭日小綬章受章。新国立劇場では、『今宵限りは・・・』『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『夢の裂け目』『ワーニャおじさん』『櫻の園』『浮標』『涙の谷、銀河の丘』『夢の泪』『世阿弥』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『箱根強羅ホテル』『母・肝っ玉とその子どもたち』『夢の痂』『CLEANSKINS/きれいな肌』『氷屋来たる』『まほろば』『雨』『マニラ瑞穂記』『あわれ彼女は娼婦』『トロイ戦争は起こらない』、オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。2000年から7シーズン新国立劇場演劇芸術監督を務め、05年から16年3月まで新国立劇場演劇研究所初代所長を務めた。



蝶々夫人:小林厚子(ソプラノ)

Madama Butterfly: KOBAYASHI Atsuko

東京藝術大学大学院オペラ科修了。文化庁在外派遣によりイタリアにて研修。藤原歌劇団『蝶々夫人』でタイトルロールデビュー。『フランチェスカ・ダ・リミニ』フランチェスカ、『マクベス』マクベス夫人、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『ナヴァラの娘』アニタ、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、『蝶々夫人』『トスカ』タイトルロールなどに出演。コンサートにおいても演奏会形式ヤナーチェク『イエスーファ』、ベートーヴェン『第九』『ミサ・ソレムニス』、ヴェルディ『レクイエム』『オテロ』(演奏会形式)、マーラー『復活』などで活躍している。新国立劇場では18年新国立劇場『トスカ』の千秋楽公演にて急遽タイトルロールの代役を務めたほか、2021年『ワルキューレ』ジークリンデ、『ドン・カルロ』エリザベッタに出演し、いずれも極めて高い評価を得た。高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』『トスカ』タイトルロールにも出演。藤原歌劇団団員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ピンカートン:ホセ・シメリーリャ・ロメロ(テノール)

Pinkerton : José Simerilla ROMERO

アルゼンチン＝スペイン系アメリカ人テノール。バレンシア音楽大学とステットソン大学で学位を取得し、ヒューストン・グラント・オペラ、ロサンゼルス・オペラ、オランダ国立オペラ、カーネギー・ホールの各研修所で学ぶ。2023年ハンス・ガボール・ベルヴェデーレ国際声楽コンクールのほか、シカゴ国際音楽コンクール、カメラータ・バルディ国際声楽コンクール、メトロポリタン歌劇場ナショナル・カウンシル・オーディションなどで入賞。これまでにロサンゼルス・フィル『フィデリオ』ジャキーノ、グラント・ティンズ音楽祭『ラ・ボエーム』ロドルフォ、フロリダ・グラント・オペラ、デイトナ交響楽団『リゴレット』マントヴァ公爵、サンフランシスコ交響楽団『オイディプス王』羊飼ひなどに出演。22/23シーズンには『ハムレット』ラエルトでベルリン・コーミッシェ・オーパーに出演したほか、ハノーファー州立歌劇場専属歌手となり『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『サルタン皇帝』クヴィドン、『カルメル会修道女の対話』ラ・フォース侯爵に出演。23/24シーズンは同劇場『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『愛の妙薬』ネモリーノのほか、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『椿姫』アルフレードに出演。新国立劇場初登場。



シャープレス:ブルーノ・タッディア(バリトン)

Sharpless : Bruno TADDIA

イタリア出身。ヴァイオリンを学んだ後、声楽、ヴァイオリン、作曲を学ぶ。ヴァイオリニストとして活動を始めた後、2001年のロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』アルヴァーロでオペラデビュー。ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、ジュネーヴ大劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、シャトレ座、シャンゼリゼ劇場、アン・デア・ウィーン劇場、リセウ大劇場など世界各地の歌劇場で『セビリアの理髪師』フィガロ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『オーリードのイフィジェニー』オレステ、『ドン・パスクワレ』マラテスタ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどへ出演。最近の主な成功作に、モネ劇場『バスタルダ』ノッティンガム、ブッチーニ・フェスティバル『ジャンニ・スキッキ』タイトルロール、カリアリ歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレ、トリエステ歌劇場『ドン・パスクワレ』マラテスタ、コロラド・オペラ、フィレンツェ歌劇場、ジュネーヴ大劇場『セビリアの理髪師』フィガロ、モンペリエ歌劇場『ファルスタッフ』タイトルロール、『ドン・パスクワレ』タイトルロールがある。新国立劇場初登場。



スズキ:山下牧子(メゾソプラ)

Suzuki : YAMASHITA Makiko

広島大学教育学部卒業、東京藝術大学大学院声楽専攻修了。第1回東京音楽コンクール第1位。これまでに『ジュリアス・シーザー』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『カルメン』タイトルロール、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネなどを演じ、スケール大きな歌唱と豊かな音楽性で音楽界を席卷する。新国立劇場では『カヴァレリア・ルスティカーナ』『ルル』『サロメ』『軍人たち』『リゴレット』『蝶々夫人』『ワルキューレ』『ヴォツェック』『カルメン』『沈黙』『ホフマン物語』『死の都』など数多く出演、最近では、『蝶々夫人』スズキ、『夜鳴きうぐいす』死神、『イオランタ』マルタ、『魔笛』侍女Ⅲ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』マグダレーネ、『さまよえるオランダ人』マリー、『カルメン』（高校生のためのオペラ鑑賞教室公演及びびわ湖ホール公演）タイトルロールなどに出演している。二期会会員。



セビリアの理髪師

Il Barbiere di Siviglia

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2025年2/23(日・祝)～3/4(火)

●一般発売日: 2025年3/8(土)

初演:1816年2月20日/ローマ・テアトロ・アルジェンティーナ

作曲:ジョアキーノ・ロッシーニ

原作:ピエール=オーギュスタン・カロン・ド・ボーマルシェ

台本:チューザレ・ステルビーニ

プロダクションについて

軽妙洒脱なストーリー展開と軽やかな声の妙技が楽しい、ロッシーニ随一の人気作。ロッシーニ・クレッシェンドで盛り上がる有名な序曲に始まり、理髪師フィガロが自慢をまくし立てる「私は町の何でも屋」、ロジーナが恋心を軽やかに歌うコロラトゥーラの人気曲「今の歌声は」など、おなじみの華やかなナンバーにのせて、箱入り娘ロジーナとアルマヴィーヴァ伯爵があの手この手のフィガロの活躍で結ばれる、痛快な恋物語が繰り広げられます。

ケップリンガー演出は、1960年代スペインが舞台。カラフルでキッチュな空気と社会変革期の“熱い”市民を背景に設定、権力と不道德の絶妙なバランスのもと、したたかな登場人物たちがコメディを展開し、笑いに次ぐ笑いを誘います。オペラが初めての方、『セビリアの理髪師』は序曲しか聴いたことがないという方でも文句なく楽しめる、鉄壁のレパートリーです。

ヒロイン・ロジーナ役には、世界のロジーナ歌手として活躍する脇園彩が、2020年公演に続いて登場。オペラパレスを沸かせ魅了した脇園の潑刺としたロジーナが、さらにスケールアップして戻ってきます。アルマヴィーヴァ伯爵には、世界最人気のベルカント・テノールのローレンス・ブラウンリーが21年『ルチア』以来のカムバック。そしてフィガロ役にバリトンのスター、ロベルト・デ・カンディア、バルトロには実力派ロッシーニ歌手ジュリオ・マストロトータロが登場する最高の顔合わせで、声の妙技を繰り広げます。



2020年公演より

あらすじ

【第1幕】アルマヴィーヴァ伯爵はマドリードで見かけた美女ロジーナを追ってセビリアへやって来た。ロジーナに向かって窓辺でセレナーデを歌うが反応なし。落ち込む伯爵の前に現れたのは、バルトロ家の理髪師で何でも屋のフィガロ。伯爵は彼にさっそく協力を頼む。ロジーナは、後見人バルトロの監視が厳しくて自由に動けないのだが、隙をみて伯爵への手紙を窓から落とす。それを読んだ伯爵は、自分は貧しい学生リンドーロだと身分を隠して自己紹介する。バルトロはロジーナとの結婚を目論んでいたが、音楽教師兼結婚業ドン・バジリオから、伯爵が彼女に迫っていると聞き、すぐに結婚契約書を作成しようとする。フィガロがロジーナに「リンドーロは君に夢中だ」と伝えると彼女は大喜び。フィガロのアイデアで伯爵は兵士に変装し、宿泊許可証を持ってバルトロ家に入る。バルトロには寝耳に水の話で、本物の兵士も来て大騒ぎの中、伯爵とロジーナは初めて会い、手紙を渡す。

【第2幕】伯爵はバジリオの弟子ドン・アロンソに扮し、体調の悪いバジリオの代わりだと言いロジーナの音楽のレッスンをする。フィガロの協力でバルトロをかかわした隙に、伯爵は、夜中に迎えに行くとロジーナに伝える。その後アロンソが偽物だと分かり怒り心頭のバルトロは「リンドーロはおまえを伯爵に売るつもりだ」とロジーナに告げる。ショックを受けたロジーナはバルトロとの結婚を承諾してしまう。嵐のち伯爵とフィガロがロジーナを迎えに行くが、彼女はリンドーロの裏切りを非難して、その場を動こうとしない。そこで伯爵は自分の正体を明かす。驚き喜ぶロジーナ。バルトロが呼んだバジリオと公証人がちょうど来たので、フィガロの機転で伯爵とロジーナの結婚契約書を作成。伯爵の素性を知り驚いたバルトロはついに観念し、伯爵とロジーナはめでたく結ばれる。

ジョアキーノ・ロッシーニ

セビリアの理髪師

Gioachino ROSSINI / Il Barbiere di Siviglia
全2幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	コッラード・ロヴァーリス Corrado ROVARIS
演出 Production	ヨーゼフ・E.ケップリンガー Josef E. KÖPPLINGER
美術・衣裳 Set and Costume Design	ハイドルン・シュメルツァー Heidrun SCHMELZER
照明 Lighting Design	八木麻紀 YAGI Maki
アルマヴィーヴァ伯爵 Il Conte d'Almaviva	ローレンス・ブラウンリー Lawrence BROWNLEE
ロジーナ Rosina	脇園 彩 WAKIZONO Aya
バルトロ Bartolo	ジュリオ・マストロトータロ Giulio MASTROTOTARO
フィガロ Figaro	ロベルト・デ・カンディア Roberto DE CANDIA
ドン・バジリオ Don Basilio	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
ベルタ Berta	加納悦子 KANOH Etsuko
フィオレッロ Fiorello	高橋正尚 TAKAHASHI Masanao
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

ほか

2025年	5月	25日(日)14:00	28日(水)14:00
		30日(金)18:30	
	6月	1日(日)14:00	3日(火)14:00

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:コツラード・ロヴァーリス

Conductor : Corrado ROVARIS

ベルガモ生まれ。フィラデルフィア・オペラ音楽監督、アートスフィア音楽祭管弦楽団音楽監督。ヴェローナの室内管弦楽団"I Virtuosi Italiani"首席指揮者。ベルカントやヴェリズモ・オペラで特に評価される。ミラノ音楽院で学び、ミラノ・スカラ座副合唱指揮者を務めた後、フィレンツェ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルに招かれ、スカラ座、フェニーチェ歌劇場、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場、リヨン歌劇場、モンテカルロ歌劇場、ローザンヌ歌劇場、ケルン歌劇場、フランクフルト歌劇場などに登場。1999年、フィラデルフィア・オペラ『フィガロの結婚』でアメリカ・デビュー。カナディアン・オペラ・カンパニー『アンナ・ボレーナ』『ロベルト・デヴェリュー』、サンタフェ・オペラ『シモン・ボッカネグラ』『愛の妙薬』『ドン・パスクワレ』『ルチア』『アルジェのイタリア女』などを指揮。フィラデルフィア・オペラではケヴィン・プッツ作曲『Elizabeth Cree』世界初演、ジョージ・ベンジャミン『リトゥン・オン・スキン』も絶賛された。最近では、フィラデルフィア・オペラ『リゴレット』『オテロ』、ベルリン・ドイツ・オペラ『セミラーミデ』、セビリア・マエストランサ劇場『フィガロの結婚』などを指揮している。新国立劇場では2019年『ドン・パスクワレ』、23年『ファルスタッフ』を指揮した。



演出:ヨーゼフ・E.ケップリンガー

Production : Josef E. KÖPPLINGER

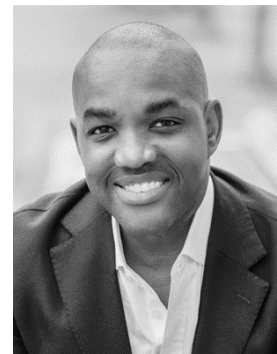
オーストリア・ウィーン生まれ。アメリカで演劇を学んだ後、ウィーン音楽大学でピアノと声楽を学び、在学中から俳優・歌手として活躍する。1987年レーゲンスブルク歌劇場のミュージカルで演出家デビュー。以来、バーデン市立劇場、ベルリン・カンマーシュピール、ウィーン・フォルクスオーパー、グラーツ歌劇場、フロリダ州タンパ歌劇場、マンチェスター・ナショナル・シアターなどで演出を手がけた。2004年から07年までザンクト・ガレン歌劇場で演劇部門の芸術監督、07年から12年までオーストリア南部のクラゲンフルト市立劇場総監督を務めた。13年にバイエルン文化賞を受賞している。現在、ゲルトナーブラッツ州立歌劇場の総監督を務めている。



アルマヴィーヴァ伯爵:ローレンス・ブラウンリー(テノール)

Il Conte d'Almaviva : Lawrence BROWNLEE

アメリカ出身。各紙でベルカントの国際的スターと称賛されるテノール。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ベルリン州立歌劇場、リセウ大劇場、マドリード・テアトロ・レアルなどの主要歌劇場へベルカントの主要な役で登場。2022/23シーズンはオペラ・フィラデルフィア『オテロ』、シカゴ・リリック・オペラ『オリー伯爵』、英国ロイヤルオペラ『セビリアの理髪師』とロッシーニの主要な役に出演したほか、メトロポリタン歌劇場『魔笛』（新制作）タミーノに出演。23/24シーズンは、シカゴ・リリック・オペラ『連隊の娘』トニオ、ウィーン国立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵に出演したほか、ウィーン・コンツェルトハウスのガラコンサート、ジュネーヴ大劇場、ダラス・オペラ、コンサートヘボウでのリサイタルなどに出演。今後の予定にミラノ・スカラ座『ドン・パスクワレ』エルネスト、バイエルン州立歌劇場『チェネレントラ』ドン・ラミーロなど。新国立劇場では06年『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、21年『ルチア』エドガルドに出演し賞賛された。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ロジーナ:脇園 彩(メゾソプラノ)

Rosina : WAKIZONO Aya

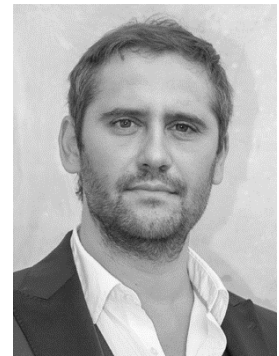
東京生まれ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。2013年文化庁派遣芸術家在外研修員としてパルマ国立音楽院に留学。ペーザロのロッシーニ・アカデミー及びミラノ・スカラ座アカデミー修了。ミラノ・スカラ座をはじめ、パレルモ・マッシモ劇場、テアトロ・レアル、マインツ州立劇場、ベルギー王立ワロン歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに多数出演。日本では17年藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナでオペラデビュー。23年、ファーストアルバム『アモレAmore』(BRAVO RECORDS)がリリース。ボローニャ歌劇場来日公演『ノルマ』アダルジーザも絶賛された。24年はジュネーヴ大劇場でドニゼッティ『ロベルト・デヴェリユー』サラ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルで『ピアンカとファッリエーロ』ファッリエーロ、パレルモ・マッシモ劇場で『イングランド女王エリザベッタ』エリザベッタでそれぞれロールデビューを予定している。主にロッシーニ、モーツァルトおよびベルカント作品をレパートリーとしてイタリアを拠点に活動し、世界中から注目されるアーティストのひとり。第52回ENEOS音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。新国立劇場へは19年『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラでデビューし、20年『セビリアの理髪師』ロジーナ、21年『フィガロの結婚』ケルビーノ、『チェネレントラ』タイトルロールに出演し、喝采を浴びた。



バルトロ:ジュリオ・マストロトタロ(バリトン)

Bartolo : Giulio MASTROTOTARO

イタリアのバリトン。AsLiCoコンクールで優勝し『愛の妙薬』ベルコーレ役を獲得したほか、マルティーナ・フランカ音楽祭のドニゼッティ『ピエトロ大帝』で最優秀演奏者賞を受賞。ロッシーニを中心に活躍を挙げ、『セビリアの理髪師』『チェネレントラ』『愛の妙薬』などでモネ劇場、ボローニャ歌劇場、アヴィニヨン歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ライブツィヒ歌劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、フィオレンティーノ音楽祭などに出演。ヴィルバード・ロッシーニ音楽祭では『結婚手形』『新聞』『ひどい誤解』に、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルで『喜びの歌』に、また、ミラノ・スカラ座では『トスカ』『アルジェのイタリア女』『イタリアのトルコ人』『愛の妙薬』に出演。ザルツブルク音楽祭のパイジェッロ『思いがけない結婚』、サンタ・チェチーリア管弦楽団『ジャンニ・スキッキ』タイトルロールにも出演している。最近では、カリアリ歌劇場『チェネレントラ』ドン・マニフィコ、ミラノ・スカラ座『アンドレア・シェニエ』マテュー、マルティーナ・フランカ音楽祭『イタリアのトルコ人』ドン・ジェローニオなどに出演した。新国立劇場初登場。



フィガロ:ロベルト・デ・カンディア(バリトン)

Figaro : Roberto DE CANDIA

イタリア生まれ。卓抜した表現力と技術により世界中で活躍し、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、グラインドボーン音楽祭、チューリヒ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、モネ劇場、フィレンツェ歌劇場などの世界の著名劇場に『セビリアの理髪師』フィガロ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『マノン・レスコー』レスコー、『チェネレントラ』ダンディーニ、『ファルスタッフ』タイトルロール、『椿姫』ジェルモン、『ジャンニ・スキッキ』タイトルロールなどでの役で登場。ミラノ・スカラ座では『シャモニーのリンダ』『マノン・レスコー』『セビリアの理髪師』『愛の妙薬』『アルジェのイタリア女』などに、メトロポリタン歌劇場には『マノン』『チェネレントラ』などに出演。ロッシーニの名手であり、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルには1996年以來たびたび出演を重ねる。新国立劇場には99年『マノン・レスコー』レスコー、2002年『セビリアの理髪師』フィガロ、09年『チェネレントラ』ダンディーニ、18年『ファルスタッフ』に続き5回目の登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ドン・バジリオ:妻屋秀和(バス)

Don Basilio : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を100役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイーダ』ランフィス、『リゴレット』スパラフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長/フィリップ二世、『ラインの黄金』ファーズルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムール、『夏の夜の夢』クインス、『イオランタ』ルネ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケルなど出演多数。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



ベルタ:加納悦子(メゾソプラノ)

Berta : KANOH Etsuko

東京藝術大学、ケルン音楽大学で声楽を学んだ後、ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目に出演。シュトゥットガルト歌劇場、ベルギー・フランドルオペラなどに客演。日本においてはびわ湖ホール『ワルキューレ』フリッカ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、東京二期会『ホフマン物語』ミューズ/ニクラウス、東京二期会『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネなどで高い評価を得る。新国立劇場では『魔笛』侍女II、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『アルマゲドンの夢』インスペクター、『ジュリオ・チェーザレ』コルネーリア、『サロメ』ヘロディアスの小姓などに出演している。ドイツリートを集めたCD『メアリ・スチュアート』の詩、『アルバン・ベルク若き日の歌』をリリース。令和元年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。二期会会員。



ナターシャ

Natasha

オペラパレス | 4回公演 | 全2幕

〈日本語、ドイツ語、ウクライナ語ほかによる多言語上演／日本語及び英語字幕付〉

●会員先行販売期間：2025年5/3(土・祝)～5/12(月)

●一般発売日：2025年5/17(土)

作曲：細川俊夫

台本：多和田葉子

プロダクションについて

大野和士芸術監督による日本人作曲家委嘱作品シリーズ第3弾として、細川俊夫による新作オペラを上演します。現代音楽をリードする作曲家として、世界各国の主要なオーケストラ、音楽祭、劇場からの委嘱作品が次々と上演されている細川俊夫は、新国立劇場へは2018年に『松風』を上演して以来の登場、大野和士とのタッグで世界初演を行うオペラはエクサン・プロヴァンス音楽祭委嘱作品『班女』（2004年）以来となります。

人と自然の関わりを見つめ直し、祈りと鎮魂としての音楽を書いてきた細川俊夫は、特に2011年の東日本大震災以後は自然の恐ろしさ、そして自然への畏怖を忘れた人間の傲慢さを念頭に、破壊の歴史を繰り返す人間の姿を問い続けています。新作の台本を手掛けるのは、ドイツを拠点に世界を見つめ、日本語とドイツ語で国境や言語をテーマにした小説を発表し世界的に評価される作家、多和田葉子。故郷を追われ彷徨う移民ナターシャと青年アラトの邂逅、そして人間の様々な地獄絵図を見せ二人を導いてゆくメフィスト的存在を核に、日本語、ドイツ語、ウクライナ語の多言語によって、現代文明と人間の始原の姿が対比されていきます。危機に瀕した地球のうめきが根底に響き、多文化を鍵に破滅と希望が描かれるオペラです。

あらすじ

海、そして宇宙の響き。アラトは母なるものを求め地底への入口を探し、故郷を追われ彷徨うナターシャと出会う。言葉が通じないながら名を伝えあった二人の前に、メフィストの孫と名乗る男が登場。二人はメフィストの孫に誘われ、海辺から森へ、そして現代の様々な地獄へと旅していく。

作曲家からのメッセージ

能楽において主人公は「橋がかり」を通して、あの世とこの世とを往復します。あの世に行っても救われなかった魂は、「橋がかり」を通してこの世にやってくる、「歌う」、「語る」、「舞う」ことによって、魂の救いを得て、再び「橋がかり」を通してあの世へ帰っていくのです。私はその「音響の橋」を、「音のトンネル」と呼んでいます。私はこのオペラで、さまざまな「音のトンネル」を創ってみたいのです。オペラ『ナターシャ』で、二人の若い主人公、ナターシャとアラトは、メフィストの孫の案内で、「音のトンネル」を通り抜け、自然環境が破壊されたさまざまな地獄を体験します。そしてその地獄は、架空の世界ではなく、この「今の現実」の世界そのものなのです。

オペラ『ナターシャ』の全体を通奏する音響トンネル（持続音響）は、オーケストラ、合唱、テープによる自然音、現実音等が、入り混じっています。その混沌としたトンネルに、多和田葉子の「言葉」が多言語によって深く織り込まれています。音響のトンネルの奥に流れているのは、人間だけではなくて、地球そのものの「うめき」、「嘆き」の声なのです。そのトンネルを通り抜け、ナターシャとアラトは、新しい世界と愛を見つけていきます。

細川俊夫

台本作家からのメッセージ

小説はほとんどの場合、一つの言語で書かれる。日本語の小説は日本語だけで書かれている。これは当たり前のようにも思われるが、街を歩いているといくつもの言語が耳に入ってくる今日の世界では不自然なことでもある。ドイツ語と日本語の二か国語で作品を執筆しているわたしでさえ、一つの作品の中で複数の言語を混ぜることは滅多になかった。「日本発の多言語オペラをつくろう」と細川俊夫さんに声をかけていただいた時には脳に電光が走った。オペラという形で、現代世界のダイバーシティを表現してみたい。日本発ということは、日本語に閉じこもるということではない。この地上にたくさんの言語が存在するからこそ、刺激を与え合い、それぞれの言語がいきいきと豊かになっていく。

わたしたちは文化や言語は多様だが、みんなで一緒にたった一つの「家」である地球で暮らしている。そのうち月や火星に引っ越していく人もいるかもしれないが、とりあえずほとんどの人は、この先何世代も地球で暮らしていくしかないだろう。その地球が苦しがりうめいているのだから、これは見過ごすことができない。森が燃え、洪水や旱魃が起こり、私欲に取り憑かれた人間たちが際限なく資源を貪る中で、この地球は、ダンテが『神曲』で描いた地獄そのものである。このオペラでは、そんな地獄をトリックスターである自称メフィストの孫に案内してもらい、破壊されていく様々な土地をさまよう若い二人が、迷いながら苦しみながらお互いへの愛を深め合っていく。二人の愛は多言語の愛で、しかも人間だけでなく動物や植物にも及ぶ包括的な愛である。彼らをとるまく世界にも絶えずそれ以外の言語が聞こえているが、音楽という共通言語の中で、無数の言語が一つの世界を形成していく。

多和田葉子

細川俊夫

ナターシャ

HOSOKAWA Toshio / Natasha

全2幕〈日本語、ドイツ語、ウクライナ語ほかによる多言語上演／日本語及び英語字幕付〉

台本 Libretto by	多和田葉子 TAWADA Yoko
作曲 Composed by	細川俊夫 HOSOKAWA Toshio
指揮 Conductor	大野和士 ONO Kazushi
演出 Production	クリスティアン・レート Christian RÄTH

ナターシャ Natasha	イルゼ・エーレンス Ilse EERENS
アラト Arato	山下裕賀 YAMASHITA Hiroka
メフィストの孫 Mephistos Enkel	クリスティアン・ミードル Christian MIEDL

ほか

合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2025年	8月	11日(月・祝) 14:00	13日(水) 14:00
		15日(金) 18:30	17日(日) 14:00

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

作曲:細川俊夫

Composed by : HOSOKAWA Toshio

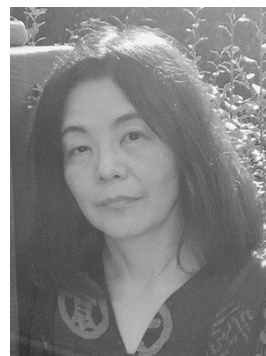
1955年広島生まれ。80年、ダルムシュタット国際現代音楽夏期講習に参加し作品を発表。以降、ヨーロッパと日本を中心に作曲活動を展開。欧米の主要なオーケストラ、音楽祭、歌劇場等から次々と委嘱を受け、高い評価を得る。オペラ『班女』(2004年、エクサン・プロヴァンス音楽祭)、オーケストラ作品『循環する海』(05年、ザルツブルク音楽祭)、ロシュ・コミッション受賞による委嘱作、オーケストラのための『夢を織る』(10年、ルツェルン音楽祭)、オペラ『松風』(11年、モネ劇場)、ベルリン・フィル、パーピカン・センター、コンサートボウ共同委嘱『ホルン協奏曲―開花の時―』といった作品は、大野和士、準・メルクル、ケント・ナガノ、サイモン・ラトル、パーヴォ・ヤルヴィらの指揮者により初演される。13年ザルツブルク音楽祭では同音楽祭委嘱によるソプラノとオーケストラのための『嘆き』をはじめ多くの作品が演奏された。16年、東日本大震災後の福島をテーマとしたオペラ『海、静かな海』(ハンブルク州立歌劇場)初演。17年にはアンサンブル・アンテルコンタンポラン委嘱のオペラ『二人静―海から来た少女―』がパリで初演。18年、オペラ『地震・夢』(シュトゥットガルト州立歌劇場)初演。01年にベルリン芸術アカデミー会員に選出。東京交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ネーデルラント・フィル(アムステルダム)、トーンハレオーケストラ(チューリヒ)、広島交響楽団のコンポーザー・イン・レジデンスを歴任。06/07年および08/09年、ベルリン高等研究所フェローとしてベルリンに滞在。12年、バイエルン芸術アカデミー会員に選出。紫綬褒章受章。18年度国際交流基金賞、21年ゲーテ・メダル受賞。23年カリフォルニア大学、パークレー日本賞受賞。23年、ベルリン・フィル委嘱作品ヴァイオリン協奏曲『祈る人』がベルリンにて世界初演される。現在、武生国際音楽祭音楽監督。



台本:多和田葉子

Libretto by : TAWADA Yoko

1960年東京都生まれ。早稲田大学ロシア文学科卒業後、ドイツに移住。ハンブルグ大学にてドイツ文学科の修士課程修了、チューリヒ大学で博士課程修了。学生時代から独日二カ国語で文学作品を執筆し、日本では芥川賞、谷崎潤一郎賞、泉鏡花賞、紫式部賞、読売文学賞、国際交流基金賞、朝日賞、毎日出版文化賞、ドイツではゲーテ・メダル、クライスト文学賞、アメリカでは全米図書賞を受賞。著作は30ヶ国語以上に翻訳され、世界各国で頻りに朗読や講演などの活動をしている。ベルリン在住。最近の小説に「地球にちりばめられて」、「星に仄めかされて」、「太陽諸島」などがある。



指揮:大野和士

Conductor : ONO Kazushi

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、バタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督(2018年～)及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンダ管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドン』『夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパージェル』『ニューベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』を指揮している。本年3月『トリスタンとイゾルデ』を、24/25シーズンは『ウィリアム・テル』『ナターシャ』を指揮する予定。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

演出:クリスティアン・レート

Production : Christian RÄTH

ハンブルク出身。ハンブルク音楽演劇大学でオペラ演出の修士号を取得。ハンブルク大学で音楽学、文学、心理学を学び、ハリー・クプファーのオペラ演出マスタークラスに参加。1995年～2001年にはジュネーヴ大劇場スタッフ・ディレクターを務める。ロラン・ペリーと『イタリアのトルコ人』『コジ・ファン・トゥッテ』『ファルスタッフ』『金鶏』『にんじんの王様』『連隊の娘』『サンドリヨン』『ホフマン物語』『椿姫』などで、ロバート・カーセンと『スペードの女王』『イル・トロヴァトーレ』『ナクソス島のアリアドネ』などで、フランチェスカ・ザンベロと『ニーベルングの指環』四部作、『ピリー・バッド』『サロメ』などで協働し、多くの作品の再演演出を手掛ける。これまでに『イオランタ』、ダラス・オペラ『トリスタンとイゾルデ』『フィデリオ』『ルイザ・ミラー』、ワシントン・ナショナル・オペラ『ファルスタッフ』、ヒューストン・グラッド・オペラ『ロメオとジュリエット』、カイロ歌劇場『魔笛』、ジュネーヴ大劇場『カルメン』などを演出。近年の演出にバード・サマースケープ・フェスティバル『無口な女』、ウィーン国立歌劇場『魔弾の射手』『マクベス』、ジュネーヴ大劇場『ジプシー男爵』がある。21年にはエジプトで「ファラオの黄金パレード」、「スフィンクス・ロード」オープニング・セレモニーを演出した。新国立劇場初登場。



ナターシャ:イルゼ・エーレンス(ソプラノ)

Natasha : Ilse EERENS

ベルギー出身。バッハから21世紀作品までオペラ、コンサート双方で活躍。主なオペラ出演に、リヨン歌劇場のツェムリンスキー『白墨の輪』、『ベアトリスとベネディクト』エロー、ザルツブルク音楽祭『魔笛』侍女I、リール歌劇場『魔笛』パミーナ、クラークンフルト歌劇場『ペレアスとメリザンド』メリザンド、ポーランド国立歌劇場『松風』タイトルロール、ブレゲンツ音楽祭、アン・デア・ウィーン劇場のグルーバー『ウィーンの森の物語』、リヨン歌劇場『火刑台上のジャンヌ・ダルク』処女マリア、ヤナーチェク『利口な女狐の物語』、英国ロイヤルオペラ『ルサルカ』料理人の少年、アン・デア・ウィーン劇場のロッシェニ『イングランドのエリザベッタ女王』など。モネ劇場では『ばらの騎士』ゾフィー、『魔笛』パミーナ、『火刑台上のジャンヌ・ダルク』、『ルーチョ・シッラ』チェリア、『仮面舞踏会』オスカル、『ウィリアム・テル』ジェミ、『サンドリヨン』ネミー、『グラン・マカーブル』アマンダなどに出演。『ばらの騎士』ゾフィーでモネ劇場へ、『魔笛』侍女Iでザルツブルク音楽祭へ、リヨン歌劇場へは『ベアトリスとベネディクト』エローに出演。新国立劇場では2018年『松風』タイトルロールに出演している。



アヲ:山下裕賀(メゾソプラノ)

Arato : YAMASHITA Hiroka

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程を首席修了。同大学院博士後期課程単位取得。武藤舞奨学金を得て、在学中にウィーンへ短期留学。2023年、第92回日本音楽コンクール声楽部門第1位および聴衆賞、第9回静岡国際オペラコンクール三浦環特別賞を受賞。これまでに日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、『カプレーティとモンテッキ』ロメオ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、藤沢市民オペラ『ナブッコ』フェネーナなどに出演。コンサートでは、大野和士指揮・東京都交響楽団によるヤナーチェク「グラゴル・ミサ」、ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」をはじめ、ベートーヴェン「第九」、ヴェルディ「レクイエム」、プロコフィエフ「アレクサンダー・ネフスキー」などでソリストを務める。日本声楽アカデミー会員。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

メフィストの孫: クリスティアン・ミードル (バリトン)

Mephistos Enkel : Christian MIEDL

国際経営学で修士号を取得した後、ドイツのユーゲント・ムジツィールトコンクールに優勝。リートとオラトリオをザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学で学ぶ。フランシスコ・ピニャス声楽コンクールでオラトリオ・リート賞受賞。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、シュトゥットガルト州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ケルン歌劇場、リヨン歌劇場などに出演。古典派、ロマン派作品と共に近年は特に現代作品で評価され、ヘンツェ『ホンブルクの王子』、ウルマン『アトランティスの皇帝』、カレンパッハ『サティアグラハ』などで高評を得る。ケルン歌劇場におけるリーム『TREE OF CODES』世界初演では主役のドクター／息子に出演。18年には東京交響楽団のツィンマーマン『白いバラ』日本初演にも出演している。コンサートにおいても、オランダ放送響のリーム『DER MALER TRÄUMT』、RAI交響楽団のモリコーネ『エルサレム』、フランス放送響エトヴェシュ『アトランティス』など多くの新作初演に出演。最近ではシュトゥットガルト州立歌劇場『ホンブルクの王子』タイトルロール、『ヘンゼルとグレーテル』ペーター、ウィーン国立歌劇場『オランダ』、ブラウンシュヴァイク州立歌劇場『神々の黄昏』グンターなどに出演している。新国立劇場初登場。



令和6年度公演 〈2 演目 8 公演〉

2024年7月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024
(新国立劇場公演)

トスカ

Tosca | G. プッチーニ
6回公演

2024年10月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024
(ロームシアター京都公演)

ドン・パスクワーレ

Don Pasquale | G. ドニゼッティ
2回公演

トスカ

Tosca

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●高校生以下発売日: 2024年6/9(日)

●一般発売日: 2024年6/23(日)

初演:1900年1月14日/コスタンツィ劇場(ローマ)

作曲:ジャコモ・プッチーニ

原作:ヴィクトリアン・サルドウ

台本:ジュゼッペ・ジャコーザ、ルイーダ・イツリカ

プロダクションについて

新国立劇場「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及を目指す新国立劇場が、次の世代を担う青少年に向け優れた舞台芸術を提供する機会として1998年(平成10年)より開催している事業です。「初めてのオペラ鑑賞だからこそ、本物のオペラを体験していただきたい」という願いを込めて、演出、舞台美術、衣裳など本公演と全く同じプロダクションを上演。日本を代表するオペラ歌手が出演し、生のオーケストラ演奏で上演しています。高校生を学生扱いせず、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくというコンセプトが大変好評をいただいております。

2024年新国立劇場公演にはプッチーニの人気作『トスカ』が登場します。歴史上の一日を切り取り、歌姫トスカと共和派の恋人カヴァラドッシ、二人を追う警視総監スカルピアのドラマティックで緊迫したドラマが、プッチーニならではの雄弁な音楽で展開します。『トスカ』の豪華な舞台美術は新国立劇場屈指の人気を誇るもの。オペラならではの迫力満点のステージは、高校生の皆さんの心も大きく揺さぶることでしょう。



2018年公演より

あらすじ

【第1幕】旧王制派の警視総監スカルピアの恐怖政治下の1800年6月17日のローマ。共和派で画家のカヴァラドッシが教会でマリア像を描いていると、アンジェロッティが脱獄して逃げてくる。カヴァラドッシは再会を喜ぶが、恋人のトスカが来るので、慌てて彼を礼拝堂に隠す。トスカは描きかけのマリア像が侯爵夫人にそっくりだと嫉妬するが、カヴァラドッシになだめられ教会を去る。彼らが隠れ家に向った後、スカルピアが教会にやってくる。脱獄犯をかくまった証拠をつかんだスカルピアは、嫉妬深いトスカを利用して二人の行方を突きとめようとする。

【第2幕】スカルピアの執務室にカヴァラドッシが連行される。アンジェロッティの居場所を白状しない彼は、拷問部屋へ連れていかれる。トスカは拷問を受ける彼のうめき声を聞き、アンジェロッティの居場所を告白してしまう。カヴァラドッシを助けてほしいとトスカが懇願すると、スカルピアは代わりにトスカ自身を要求。トスカは泣く泣く受け入れる。スカルピアは、形だけの死刑執行をするため、空砲で銃殺刑を行うと約束する。納得したトスカは出国のための通行証書を要求。書き終えたスカルピアがトスカを抱こうとしたとき、「これがトスカの口づけよ」とトスカはスカルピアを刺し、部屋を去る。

【第3幕】牢獄のカヴァラドッシのもとをトスカが訪れ、スカルピアを殺したこと、刑は見せかけであることを説明。死刑執行のときを迎える。銃声が鳴り響き、地面に崩れ落ちるカヴァラドッシ。トスカが駆け寄ると、彼は命尽きていた。そのときスカルピア殺害も発覚。追い詰められたトスカは、聖アンジェロ城から身を投げる。

ジャコモ・プッチーニ
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024

トスカ

Giacomo PUCCINI / Tosca

全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	園田隆一郎 SONODA Ryuichiro
演出 Production	アントネッロ・マダウ＝ディアツ Antonello MADAU-DIAZ
美術 Set Design	川口直次 KAWAGUCHI Naoji
衣裳 Costume Design	ピエール・ルチアーノ・カヴァッロッティ Pier Luciano CAVALLOTTI
照明 Lighting Design	奥畑康夫 OKUHATA Yasuo

		(7月11日・13日・17日)	(7月12日・16日・18日)
トスカ Tosca	木下美穂子 KINOSHITA Mihoko	竹多倫子 TAKEDA Michiko
カヴァラドッシ Cavaradossi	村上公太 MURAKAMI Kota	工藤和真 KUDO Kazuma
スカルピア Scarpia	上江隼人 KAMIE Hayato	青山 貴 AOYAMA Takashi
アンジェロッティ Angelotti	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu	河野鉄平 KONO Teppei
スポレッタ Spoletta	糸賀修平 ITOGA Shuhei	岸浪愛学 KISHINAMI Aigaku
シャルローネ Sciarrone	大塚博章 OTSUKA Hiroaki	高橋正尚 TAKAHASHI Masanao
堂守 Il Sagrestano	志村文彦 SHIMURA Fumihiko	畠山 茂 HATAKEYAMA Shigeru

ほか

合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

助 成：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

協 賛： **ローム株式会社**  **損保ジャパン**

2024年 7月	11日(木)13:00	12日(金)13:00	13日(土)13:00
	16日(火)13:00	17日(水)13:00	18日(木)13:00

【チケット料金】 2,200円(高校生及び引率教員【学校団体】)

残席がある公演日に限り前売販売：2,200円(高校生以下)／6,600円(一般 [大人])

【 会 場 】 オペラパレス

ドン・パスクワレ

Don Pasquale

ロームシアター京都 メインホール | 2回公演 | 全3幕<イタリア語上演/日本語字幕付>

初演:1843年1月3日/パリ・イタリア劇場

作曲:ガエターノ・ドニゼッティ

原作:ステファノ・パヴェージのオペラ『マルカントーニオ氏』のアンジェロ・アネッリの台本による

台本:ジョヴァンニ・ルッフィーニ、ガエターノ・ドニゼッティ

プロダクションについて

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は2008年から関西公演が始まり、2016年からはロームシアター京都へ会場を移し、『フィガロの結婚』『蝶々夫人』『魔笛』『ドン・パスクワレ』と上演を重ねてきました。今回はドニゼッティの代表作『ドン・パスクワレ』が2回目の登場となります。オーソドックスながら繊細な表現や効果的な展開に感性が光るヴィツイオーリ版は、イタリア伝統の叡智が詰まった秀逸な舞台で、世界各地で上演されてきた人気プロダクションです。オペラの楽しさをテンポよく伝える『ドン・パスクワレ』を、日本を代表する歌手陣の出演でお届けします。



2021年公演より

あらすじ

【第1幕】裕福な独身老人ドン・パスクワレは主治医マラテスタに花嫁探しを依頼した。実はパスクワレの甥エルネストの親友でもあるマラテスタは、妹を薦める。エルネストの恋人ノリーナを自分の妹と偽ってパスクワレと結婚させ辟易させて、逆にエルネストとの結婚を認めさせようという魂胆だ。エルネストが伯父の勧める結婚話を断ると、パスクワレは自分が結婚して子を設けると宣言。エルネストは財産を相続してノリーナを迎える夢が破れ嘆く。ノリーナが小説の中の騎士に寄せ恋心を歌っていると、エルネストからローマを去るという手紙が届き驚く。マラテスタが来て計略を説明し、ノリーナをパスクワレ好みのうぶな娘に仕立て上げる。

【第2幕】パスクワレのもとへマラテスタがヴェールで顔を覆った女性を連れて登場、修道院出の妹ソフロニャと紹介する。パスクワレはすっかり気に入って、結婚式を執り行う。ノリーナが結婚の署名をする瞬間エルネストが入って来て驚嘆するが、マラテスタが素早く言いくめ、ノリーナ、そしてエルネストも証人として署名する。式が終わった途端ノリーナの態度が豹変し、あれこれ注文を始め、大騒ぎとなる。

【第3幕】パスクワレ家はノリーナが買い物をした請求書の山。ノリーナは着飾って劇場へ行くと言い出し、止めようとする夫を平手打ちする。ノリーナがわざと落としていった逢引の手紙に、パスクワレは大憤慨する。夜、庭でセレナーデを歌うエルネストの前にノリーナが登場。パスクワレとマラテスタがノリーナを捕らえる。逆上したパスクワレが離縁を命じ、エルネストの結婚を許すと告げると、マラテスタがノリーナはここにいると言う。驚くパスクワレにマラテスタは自分の計略を明かし、パスクワレも許して若い二人を祝福する。

ガエターノ・ドニゼッティ
 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024

ドン・パスクワレ

Gaetano DONIZETTI / Don Pasquale

全3幕 〈イタリア語上演／日本語字幕付〉

指揮 Conductor	沼尻竜典 NUMAJIRI Ryusuke	
演出 Production	ステファノ・ヴィツィオーリ Stefano VIZIOLI	
美術 Set Design	スザンナ・ロッシ・ヨスト Susanna Rossi JOST	
衣裳 Costume Design	ロベルタ・グイディ・ディ・バーニョ Roberta Guidi di BAGNO	
照明 Lighting Design	フランコ・マッリ Franco MARRI	
ドン・パスクワレ Don Pasquale	久保田真澄 KUBOTA Masumi	
マラテスタ Dottore Malatesta	上江隼人 KAMIE Hayato	
エルネスト Ernesto	中井亮一 NAKAI Ryoichi	
ノリーナ Norina	三宅理恵 MIYAKE Rie	ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus	
管弦楽 Orchestra	京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra	

主 催： 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場
 助 成： 公益財団法人 **ロームミュージックファンデーション**
 協 賛： **ローム株式会社**

2024年 10月 29日(火)13:00	30日(水)13:00
-----------------------	-------------

- 【チケット料金】 2,200円(高校生及び引率教員【学校団体】)
 残席がある公演日に限り、高校生以下、一般販売を行います。
- 【 会 場 】 ロームシアター京都 メインホール

Opera

公演一覧

開場記念公演～2023/2024 シーズン

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU*	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	1997. 10/10
	ローエングリン*	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	1997. 11/22
	アイダ*	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバロ	フランコ・ゼツフィレツリ	1998. 1/15
1998/ 1999	蝶々夫人*	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 4/08
	魔笛*	W.A.モーツァルト	大野和士	ミヒヤエル・ハンペ	1998. 5/06
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	1998. 6/18
	アラベッラ*	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	1998. 9/19
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1998. 10/09
	ヘンゼルとグレーテル*	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	1998. 11/27
	カルメン*	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	1999. 1/19
	天守物語*	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	1999. 2/13
	こうもり*	J.シュトラウス II 世	北原幸男	寺崎裕則	1999. 4/21
	罪と罰*	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	1999. 6/18
	1999/ 2000	仮面舞踏会*	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ
マノン・レスコー*		G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1999. 11/06
蝶々夫人		G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュティ	栗山昌良	1999. 12/18
ドン・ジョヴァンニ*		W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	2000. 1/16
セビリアの理髪師		G.ロッシーニ	アントニオ・ピロツリ	栗國淳/ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	2000. 2/20
沈黙*		松村禎三	星出 豊	中村敬一	2000. 3/16
サロメ*		R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファアーディング	2000. 4/11
ドン・キホット*		J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	2000. 5/07
リゴレット*		G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッシーニ	2000. 6/11
2000/ 2001	トスカ*	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2000. 9/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミヒヤエル・ハンペ	2000. 10/10
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ポクロフスキー/ヴェラ・カルパチョワ	2000. 10/30
	青ひげ公の城*	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2000. 11/24
	夕鶴*	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	2000. 12/02
	イルトロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	2001. 1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロツリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 2/05
	ラインの黄金*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2001. 3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	2001. 5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	2001. 6/07
	マノン*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ボネル	2001. 7/05
2001/ 2002	トゥーランドット*	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	2001. 9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2001. 11/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	2001. 11/16
	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 12/06
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	2002. 1/10
	忠臣蔵*	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	2002. 1/25
	ウェルテル*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	2002. 2/21
	ワルキューレ*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2002. 3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファアーディング	2002. 5/01
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2002. 5/02
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティエーア	2002. 6/07

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2002/ 2003	椿姫*	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	2002. 9/05
	ルチア*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴァンチェンツォ・グリゾストミトラヴァリーニ	2002. 10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2002. 10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッタ	アルベルト・ファッシーニ	2002. 11/21
	ナクソス島のアリアドネ*	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	2002. 12/12
	光*	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	2003. 1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	2003. 1/31
	ジークフリート*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2003. 3/27
	ラ・ボエーム*	G.プッチーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2003. 4/19
	オテロ*	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	2003. 6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	2003. 9/14
2003/ 2004	フィガロの結婚*	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2003. 10/10
	トスカ	G.プッチーニ	ジェラルド・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2003. 11/09
	ホフマン物語*	G.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2003. 11/28
	鳴神*／俊寛*	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	2004. 1/30
	スペインの燦き*	M.ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	2004. 2/18
	サロメ	R.シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファアーディンク	2004. 2/27
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2004. 3/26
	マクベス*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	2004. 5/13
	ファルスタッフ*	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2004. 6/25
	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 6/28
2004/ 2005	カヴァレリア・ルスティカーナ*／ 道化師*	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	2004. 9/09
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	井上道義	粟國 淳	2004. 9/25
	エレクトラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	2004. 11/11
	椿姫	G.ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	2004. 11/22
	マクベス	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	2005. 1/17
	ルル*	A.ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	2005. 2/08
	おさん―「心中天網島」より*	久保摩耶子	神田慶一	粟國 淳	2005. 2/25
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レブシュレーガー	2005. 3/21
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	2005. 4/07
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2005. 5/28
蝶々夫人*	G.プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	2005. 6/24	
2005/ 2006	ニルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	2005. 9/14
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2005. 10/14
	アンドレア・シェニエ*	U.ジヨルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	2005. 11/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2005. 11/27
	魔笛	W.A.モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	2006. 1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レブシュレーガー	2006. 2/04
	愛怨*	三木 稔	大友直人	恵川智美	2006. 2/17
	運命のカ*	G.ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	2006. 3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイーダ	グリシャ・アサガロフ	2006. 4/05
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	2006. 6/14

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2006/ 2007	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 9/07
	イドメネオ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	2006. 10/20
	フィデリオ	L.v.ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 11/30
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	ミケーレ・カルツリ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2006. 12/01
	さまよえるオランダ人*	R.ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2007. 2/25
	運命の力	G.ヴェルディ	マウリツィオ・バルパチーニ	エミリオ・サージ	2007. 3/15
	蝶々夫人	G.プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	2007. 3/22
	西部の娘*	G.プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2007. 4/15
	ばらの騎士*	R.シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/06
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/13
2007/ 2008	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦*	R.ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	2007. 10/08
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2007. 10/18
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 11/25
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	マウリツィオ・バルパチーニ	栗國 淳	2008. 1/20
	サロメ	R.シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファアーディング	2008. 2/03
	黒船 一夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	2008. 2/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼツフィレツリ	2008. 3/10
	魔弾の射手*	C.M.v.ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	2008. 4/10
	軍人たち*	B.A.ツインマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	2008. 5/05
	椿姫	G.ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	2008. 6/05
2008/ 2009	トウーランドット*	G.プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	2008. 10/01
	リゴレット	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2008. 10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリックス	グリシャ・アサガロフ	2008. 12/05
	蝶々夫人	G.プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	2009. 1/12
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	2009. 1/27
	ラインの黄金	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 3/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 4/03
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D.ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	2009. 5/01
	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ポネル	2009. 6/07
	修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	2009. 6/25
2009/ 2010	オテロ*	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	2009. 9/20
	魔笛	W.A.モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒャエル・ハンペ	2009. 10/29
	ヴォツェック*	A.ベルク	ハルトムート・ヘンヒエン	アンドレアス・クリーゲンブルク	2009. 11/18
	トスカ	G.プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2009. 12/02
	ジークフリート	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 2/11
	神々の黄昏	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 3/18
	愛の妙薬*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チャーザレ・リエヴィ	2010. 4/15
	影のない女*	R.シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	2010. 5/20
	カルメン	G.ビゼー	マウリツィオ・バルパチーニ	鶴山 仁	2010. 6/10
	鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鶴山 仁	2010. 6/24
2010/ 2011	アラベッラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	2010. 10/02
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ミヒャエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	2010. 10/10
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2010. 11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2010. 12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	2011. 2/04
	椿姫	G.ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	2011. 2/14
	マノン・レスコー*(公演中止)	G.プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R.シュトラウス	マンフレッド・マイヤー＝ホーファー	ジョナサン・ミラー	2011. 4/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	ダミアノ・ミキエレット	2011. 5/29
	蝶々夫人	G.プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	2011. 6/06

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2011/ 2012	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ペーター	2011. 10/02
	サロメ	R.シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファアーディング	2011. 10/09
	ルサルカ*	A.ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラン	2011. 11/23
	こうもり	J.シュトラウス二世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	2011. 12/01
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	コンスタンティン・トリックス	粟國 淳	2012. 1/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2012. 2/15
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 3/08
	オテロ	G.ヴェルディ	ジャン・レイサム＝ケニック	マリオ・マルトーネ	2012. 4/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	エンリケ・マッツォーラ	グリシャ・アサガロフ	2012. 4/19
ローエングリン*	R.ワーグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 6/01	
2012/ 2013	ピーター・グライムズ*	B.ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	2012. 10/02
	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2012. 11/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	カルロ・モンタナーロ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2012. 11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R.ワーグナー	コンスタンティン・トリックス	ハンス＝ペーター・レーマン	2013. 1/23
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チェーザレ・リエヴィ	2013. 1/31
	アイーダ	G.ヴェルディ	ミヒヤエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレッリ	2013. 3/11
	魔笛	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒヤエル・ハンペ	2013. 4/14
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	2013. 5/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	イヴ・アベル	ダミアーノ・ミキエレット	2013. 6/03
夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	2013. 6/25	
2013/ 2014	リゴレット*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	アンドレアス・クリーゲンブルク	2013. 10/03
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2013. 10/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2013. 11/28
	カルメン	G.ビゼー	アイナルス・ルビキス	鶴山 仁	2014. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ケリー＝リン・ウィルソン	栗山民也	2014. 1/30
	死の都*	E.W.コロンゴルト	ヤロスラフ・キズリンク	カスパー・ホルテン	2014. 3/12
	ヴォツェック	A.ベルク	ギュンター・ノイホルト	アンドレアス・クリーゲンブルク	2014. 4/05
	カヴァレリア・ルスティカーナ* 道化師*	P.マスカーニ/ R.レオンカヴァッロ	レナート・パルンボ	ジルベール・デフロ	2014. 5/14
	アラベッラ	R.シュトラウス	ベルトラン・ド・ビリー	フィリップ・アルロー	2014. 5/22
鹿鳴館	池辺晋一郎	飯森範親	鶴山 仁	2014. 6/19	
2014/ 2015	バルジファル*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ハリー・クブファー	2014. 10/02
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	グリシャ・アサガロフ	2014. 10/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2014. 11/27
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2015. 1/18
	こうもり	J.シュトラウス二世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2015. 1/29
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	ピエール・ジョルジョ・モランディ	ジルベール・デフロ	2015. 3/09
	運命の力	G.ヴェルディ	ホセ・ルイス・ゴメス	エミリオ・サージ	2015. 4/02
	椿姫*	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ヴァンサン・ブサール	2015. 5/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	シュテファン・ショルテス	ジョナサン・ミラー	2015. 5/24
沈黙	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2015. 6/27	
2015/ 2016	ラインの黄金*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2015. 10/01
	トスカ	G.プッチーニ	エイヴィン・グルバルグ・イェンセン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2015. 11/17
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ジョナサン・ミラー	2015. 12/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	ロベルト・パーテルノストロ	ミヒヤエル・ハンペ	2016. 1/24
	イエヌーファ*	L.ヤナーチェク	トマーシュ・ハヌス	クリストフ・ロイ	2016. 2/28
	サロメ	R.シュトラウス	ダン・エッティンガー	アウグスト・エファアーディング	2016. 3/06
	ウェルテル*	J.É.F.マスネ	エマニュエル・プラッソン	ニコラ・ジョエル	2016. 4/03
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダノ	ヤデル・ピニャミーニ	フィリップ・アルロー	2016. 4/14
	ローエングリン	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2016. 5/23
夕鶴	團 伊玖磨	大友直人	栗山民也	2016. 7/01	

★=新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2016/ 2017	ワルキューレ*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2016. 10/02
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・アリヴァベーニ	粟國 淳	2016. 11/17
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	フランチェスコ・アンジェリコ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2016. 11/27
	カルメン	G.ビゼー	イヴ・アベル	鶴山 仁	2017. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	フィリップ・オーギャン	栗山民也	2017. 2/02
	ルチア*	G.ドニゼッティ	ジャン・パオロ・ビザンティ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2017. 3/14
	オテロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マリオ・マルトーネ	2017. 4/09
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリックス	アンドレアス・ホモキ	2017. 4/20
2017/ 2018	ジークフリート*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 6/01
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 10/01
	椿姫	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	ヴァンサン・ブサール	2017. 11/16
	ばらの騎士	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ジョナサン・ミラー	2017. 11/30
	こうもり	J.シュトラウス二世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2018. 1/18
	松風*	細川俊夫	デヴィッド・ロバート・コールマン	サシヤ・ヴァルツ	2018. 2/16
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	セバステイアン・ルラン	フィリップ・アルロー	2018. 2/28
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	フレデリック・シャスラン	チェーザレ・リエヴィ	2018. 3/14
	アイーダ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	フランコ・ゼッフィレッリ	2018. 4/05
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	飯守泰次郎	カタリーナ・ワーグナー	2018. 5/20
2018/ 2019	トスカ	G.プッチーニ	ロレンツォ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018. 7/01
	魔笛*	W.A.モーツァルト	ローラント・ベアー	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/03
	カルメン	G.ビゼー	ジャン＝リュック・タンゴー	鶴山 仁	2018. 11/23
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	ジョナサン・ミラー	2018. 12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アッシャー・フィッシュ	ハンス＝ペーター・レーマン	2019. 1/27
	紫苑物語*	西村 朗	大野和士	笈田ヨシ	2019. 2/17
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	ポール・ダニエル	ニコラ・ジョエル	2019. 3/19
	フィレンツェの悲劇* /ジャンニ・スキッキ*	A.ツェムリンスキー / G.プッチーニ	沼尻竜典	粟國 淳	2019. 4/07
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	カーستن・ヤヌシュケ	グリシャ・アサガロフ	2019. 5/17
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ドナート・レンツェッティ	栗山民也	2019. 6/01
2019/ 2020	トゥーランドット*	G.プッチーニ	大野和士	アレックス・オリエ	2019. 7/18
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	アンドリー・ユルケヴィチ	ドミトリー・ベルトマン	2019. 10/01
	ドン・パスクワレ*	G.ドニゼッティ	コラード・ロヴァーリス	ステファノ・ヴィツイオーリ	2019. 11/09
	椿姫	G.ヴェルディ	イヴァン・レブシッチ	ヴァンサン・ブサール	2019. 11/28
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・カリニャーニ	粟國 淳	2020. 1/24
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2020. 2/06
	ゴジ・ファン・トゥッテ(公演中止)	W.A.モーツァルト	パオロ・オルミ	ダミアノ・ミキエレット	
	ジュリオ・チェーザレ*(公演中止)	G.F.ヘンデル	リナルド・アレクサンドリーニ	ロラン・ベリー	
	ホフマン物語(公演中止)	J.オッフェンバック	マルコ・レトニーヤ	フィリップ・アルロー	
	サロメ(公演中止)	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリックス	アウグスト・エファアーディング	
2020/ 2021	ニュルンベルクのマイスタージンガー* (公演中止)	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク	
	夏の夜の夢*	B.ブリテン	飯森範親	レア・ハウスマン (デイヴィッド・マクヴィカーの演出に基づく)	2020. 10/04
	アルマゲドンの夢*	藤倉 大	大野和士	リディア・シュタイアー	2020. 11/15
	こうもり	J.シュトラウス二世	クリストファー・フランクリン	ハインツ・ツェドニク	2020. 11/29
	トスカ	G.プッチーニ	ダニエレ・カッレガーリ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2021. 1/23
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2021. 2/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	大野和士/城谷正博	ゲッツ・フリードリヒ	2021. 3/11
	夜鳴きうぐいす* /イオランタ*	I.ストラヴィンスキー / P.チャイコフスキー	高関 健	ヤニス・コココス	2021. 4/04
	ルチア	G.ドニゼッティ	スペランツァ・スカップッチ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2021. 4/18
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マルコ・アルトゥーロ・マレツィ	2021. 5/20
カルメン*	G.ビゼー	大野和士	アレックス・オリエ	2021. 7/03	

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2021/ 2022	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	城谷正博	栗國 淳	2021. 10/01
	ニルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク	2021. 11/18
	蝶々夫人	G.プッチーニ	下野竜也	栗山民也	2021. 12/05
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	ガエタノ・デスピノーサ	マティアス・フォン・シュテークマン	2022. 1/26
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ガエタノ・デスピノーサ	チェーザレ・リエヴィ	2022. 2/07
	椿姫	G.ヴェルディ	アンドリー・ユルケヴィチ	ヴァンサン・ブサール	2022. 3/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	サッシャ・ゲッツェル	ジョナサン・ミラー	2022. 4/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	オレグ・カエターニ	ウィリアム・ケントリッジ	2022. 4/16
	オルフェオとエウリディーチェ*	C.W.グルック	鈴木優人	勅使川原三郎	2022. 5/19
	ペレアスとメリザンド*	C.ドビュッシー	大野和士	ケイティ・ミツチェル	2022. 7/02
2022/ 2023	ジュリオ・チェーザレ*	G.F.ヘンデル	リナルド・アレッサンドリーニ	ロラン・ベリー	2022. 10/02
	ポリス・ゴドゥノフ*	M.ムソルグスキー	大野和士	マリウシュ・トレリンスキ	2022. 11/15
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	パオロ・オルミ	グリシャ・アサガロフ	2022. 12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アレホ・ペレス	ハンス＝ベーター・レーマン	2023. 1/28
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	コッラード・ロヴァーリス	ジョナサン・ミラー	2023. 2/10
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	マルコ・レトーニャ	フィリップ・アルロー	2023. 3/15
	アイーダ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	フランコ・ゼッフィレッリ	2023. 4/05
	リゴレット*	G.ヴェルディ	マウリツィオ・ベニーニ	エミリオ・サージ	2023. 5/18
	サロメ	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリックス	アウグスト・エファーディング	2023. 5/27
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	大野和士	栗國 淳	2023. 6/28
2023/ 2024	修道女アンジェリカ* /子どもと魔法*	G.プッチーニ / M.ラヴェル	沼尻竜典	栗國 淳	2023. 10/01
	シモン・ボッカネグラ*	G.ヴェルディ	大野和士	ピエール・オーディ	2023. 11/15
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	パトリック・ハーン	ハインツ・ツェドニク	2023. 12/06
	エウゲニ・オネーギン	P.チャイコフスキー	ヴァレンティン・ウリュエピン	ドミトリー・ベルトマン	2024. 1/24
	ドン・パスクワーレ	G.ドニゼッティ	レナート・パルサドンナ	ステファノ・ヴィツィオーリ	2024. 2/04
	トリスタンとイゾルデ	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2024. 3/14
	椿姫	G.ヴェルディ	フランチェスコ・ランツィロッタ	ヴァンサン・ブサール	2024. 5/16
	ゴジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	飯森範親	ダミアノ・ミキエレット	2024. 5/30
トスカ	G.プッチーニ	マウリツィオ・ベニーニ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2024. 7/06	

★＝新制作

〈高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 10 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 7/15
平成 11 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	星出 豊	栗山昌良	1999. 7/13
平成 12 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	福森 湘	栗山昌良	2000. 7/12
平成 13 年度	トスカ	G.プッチーニ	村中大祐	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2001. 7/10
平成 14 年度	トスカ	G.プッチーニ	井崎正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2002. 7/12
平成 15 年度	トスカ	G.プッチーニ	佐藤正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2003. 7/11
平成 16 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 7/12
平成 17 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2005. 7/11
平成 18 年度	カヴァレリア・ルスティカーナ	P.マスカーニ	岡本和之	グリシヤ・アサガロフ	2006. 7/10
平成 19 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2007. 7/09
平成 20 年度	椿姫	G.ヴェルディ	城谷正博	ルーカ・ロンコーニ	2008. 7/11
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2008. 11/13
平成 21 年度	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2009. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2009. 10/15
平成 22 年度	カルメン	G.ビゼー	石坂 宏	鶴山 仁	2010. 7/12
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2010. 10/27
平成 23 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山民也	2011. 7/11
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	石坂 宏	チェーザレ・リエヴィ	2011. 10/26
平成 24 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	石坂 宏	栗國 淳	2012. 7/12
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2012. 10/24
平成 25 年度	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2013. 7/10
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2013. 10/30
平成 26 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2014. 7/09
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2014. 11/05
平成 27 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	石坂 宏	栗山民也	2015. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2015. 10/27
平成 28 年度	夕鶴	團 伊玖磨	城谷正博	栗山民也	2016. 7/09
	フィガロの結婚(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	広上淳一	アンドレアス・ホモキ	2016. 10/26
平成 29 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2017. 7/10
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	高関 健	栗山民也	2017. 10/30
平成 30 年度	トスカ	G.プッチーニ	城谷正博	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2018. 7/06
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/29
令和 元年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	飯森範親	栗山民也	2019. 7/06
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2019. 10/28
令和 2 年度	夕鶴(公演中止)	團 伊玖磨	三ツ橋敬子	栗山民也	
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2020. 10/27
令和 3 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	アレックス・オリエ	2021. 7/09
	ドン・パスクワレ(於 ロームシアター京都)	G.ドニゼッティ	阪 哲朗	ステファノ・ヴィツィオーリ	2021. 10/26
令和 4 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	阪 哲朗	栗山民也	2022. 7/08
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	阪 哲朗	栗山民也	2022. 10/25
令和 5 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	阪 哲朗	栗國 淳	2023. 7/10
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2023. 10/26

〈特別企画〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
令和 2 年度 (公演中止)	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本: 島田雅彦	
令和 3 年度	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本: 島田雅彦	2021. 8/21

〈小劇場オペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	オルフェオとエウリディーチェ	C.W.グルック	佐藤正浩	岩田達宗	2000. 6/25
	幸せな間違い	G.ロッシーニ	星出 豊	栗國 淳	2000. 9/07
	アブ・ハッサン／オペラの稽古	C.M.v. ウェーバー ／A.ロルツィング	三澤洋史	井上 光	2000. 12/23
平成 13 年度	ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2001. 4/19
	花言葉	R.ロッセリーニ	宮松重紀	今井伸昭	2001. 10/11
	賢い女	C.オルフ	時任康文	伊藤明子	2002. 2/07
平成 14 年度	シャーロック・ホームズの事件簿(告白)	原 嘉壽子	樋本英一	岩田達宗	2002. 4/25
	なりゆき泥棒	G.ロッシーニ	佐藤 宏	恵川智美	2002. 9/12
	無人島	F.J.ハイドン	山上純司	井原広樹	2003. 1/23
平成 15 年度	ドン・ジョヴァンニ	G.ガッツァーニ	松岡 究	今井伸昭	2003. 5/15
	イタリアのモーツァルト	W.A.モーツァルト	平井秀明	恵川智美	2003. 11/13
	外套	G.プッチーニ	神田慶一	栗國 淳	2004. 2/05
平成 16 年度	友人フリッツ	P.マスカーニ	渡邊一正	高岸未朝	2004. 6/10
	ザザ	R.レオンカヴァッロ	服部譲二	恵川智美	2005. 3/03
平成 17 年度	セルセ	G.F.ヘンデル	平井秀明	三浦安浩	2006. 1/12
平成 18 年度	フラ・ディアボロ	D.F.E.オベール	城谷正博	田尾下 哲	2007. 2/15

〈演奏会形式公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 20 年度	コンサート・オペラ ペレアスとメリザンド	C.A.ドビュッシー	若杉 弘	若杉 弘(舞台構成)	2008. 6/28
平成 21 年度	コンサート・オペラ ポップアの戴冠	C.モンテヴェルディ	鈴木雅明	鈴木優人・田村吾郎	2009. 5/15
平成 23 年度	コジ・ファン・トゥッテ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2011. 5/15
平成 24 年度	ドン・ジョヴァンニ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2012. 4/03
平成 26 年度	さまよえるオランダ人(演奏会形式)	R.ワーグナー	城谷正博		2015. 1/16
平成 29 年度	「ジークフリート」ハイライトコンサート -邦人歌手による-	R.ワーグナー	城谷正博		2017. 5/17

〈こどものためのオペラ劇場〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 16 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2004. 8/06
平成 17 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2005. 7/30
平成 18 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2006. 7/28
平成 19 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2007. 7/28
平成 20 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2008. 7/25
平成 21 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2009. 7/24
平成 23 年度	パルジファルとふしぎな聖杯	R.ワーグナー 「パルジファル」による	三澤洋史 (編曲・指揮・台本)	三浦安浩(演出)	2011. 7/22

〈文化庁芸術祭〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	国際音楽の日記念コンサート オペラ・ガラコンサート	菊池彦典		2000. 10/01
平成 18 年度	新国立劇場開場 10 周年記念 オペラ・バレエ ガラ公演	渡邊一正(第一部) フィリップ・オーギャン(第二部)		2007. 10/01
平成 21 年度	国際音楽の日記念 メリーメリー・ウィドウ 祝祭版～ちよつと陽気な未亡人～	現田茂夫	飯塚勲生	2009. 10/01
平成 25 年度	国際音楽の日記念 尾高忠明指揮 新国立劇場合唱団が歌う ベルシャザールの饗宴	尾高忠明		2013. 10/01

〈国際交流公演〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 24 年度	2012「日中国民交流友好年」認定行事 オペラ『アイダ』(コンサート形式)	広上淳一		2012. 7/27

〈ニューイヤー オペラパレス ガラ〉

年度	公演	指揮	公演初日
平成 19 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	マウリツィオ・バルパチーニ	2008. 1/05
平成 20 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	渡邊一正(バレエ)／菊池彦典(オペラ)	2009. 1/05
平成 21 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	大井剛史(バレエ)／菊池彦典(オペラ)	2010. 1/05

〈はじめてのオペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 19 年度	カルメン ～楽しいトークとハイライト上演～	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 12/02

〈舞台芸術国際フェスティバル〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 14 年度	舞台芸術国際フェスティバル ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2002. 9/28

〈地域招聘公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 17 年度	沈黙(ザ・カレッジ・オペラハウス)	松村禎三	山下一史	中村敬一	2005. 9/16
平成 18 年度	フィガロの結婚(ひろしまオペラルネッサンス)	W.A.モーツァルト	デリック・イノウエ	岩田達宗	2006. 10/15
平成 19 年度	ナクス島のアリアドネ(関西二期会)	R.シュトラウス	飯守泰次郎	松本重孝	2008. 1/25
平成 21 年度	月を盗んだ話(札幌室内歌劇場)	C.オルフ	柳澤寿男	中津邦仁	2010. 1/13
平成 23 年度	鳴砂(仙台オペラ協会)	岡崎光治	山下一史	岡崎光治	2011. 7/30
平成 25 年度	三文オペラ(びわ湖ホール)	K.ワイル	園田隆一郎	栗山昌良	2013. 7/12
平成 27 年度	いのち(長崎県オペラ協会)	錦かよ子	星出 豊	星出 豊	2015. 7/25
平成 29 年度	ミカド(びわ湖ホール)	A.サリヴァン	園田隆一郎	中村敬一	2017. 8/26
令和 2 年度	竹取物語(びわ湖ホール) (公演中止)	沼尻竜典	沼尻竜典	栗山昌良	